令和7年度

教育計画（シラバス）

【2年】

MIYAZAKI AGRICULTURAL JUNIOR COLLEGE

宮崎県立農業大学校

令和６年度入学生　教育課程表（Ｒ７＿２年次）

A表

				科目名	区分	科目区分	種別	２年		農学科						畜産学科			
								単位	時間	作物	野菜	果樹	花	茶	農フード	畜フード	肉用牛	酪農	養豚
専門科目	全学科共通	201		ルピナスの時間Ⅱ															
		202		英会話Ⅱ	後	履修	講義	1	15	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		203		英語特別講義Ⅱ	特	選択	講義	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
		204		保健・体育Ⅱ	特	履修	講義	1	15	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		205		くらしと法律・経済	前	履修	講義	1	15	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		206	選B	くらしと科学	前	選択	講義	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
		207		農業と化学	前	選択	講義	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
		208	選D	小論文演習Ⅱ	前	選択	講義	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
		209		くらしと社会（コミニュケーション）	前	選択	講義	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
		210		農業科教育法	特	選択	講義	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
		211		教育実習	特	選択	実習	2	60	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
専門科目	全学科共通・専攻別	212		国内外農業研修	後	必修	実習	2	60	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		213		卒業論文	後	必修	演習	4	60	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		214		アグリビジネスⅡ	全	必修	講義	1	15	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		215		インターンシップⅡ	前	必修	実習	1	30	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		216		農業生産工程管理Ⅱ	前	必修	講義	1	15	◎	◎	◎	◎	◎			◎	◎	◎
		217		農政施策	全	必修	講義	1	15	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		218		大型特殊機械演習（大特）	全	選択	演習	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
		219		マーケティングⅡ	全	履・選	演習	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	○	○	▲	▲	▲
		220		大型機械操作演習（けん引）	全	選択	実技	1	30	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
		221		ドローン操作基礎	前	選択	講義	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
		222		ドローン操作演習	特	選択	演習	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
		223		会社経営Ⅱ	全	必・選	講義	2	30	▲	▲	▲	▲	▲	◎	◎	▲	▲	▲
		224		食品の機能性Ⅱ	前	履・選	講義	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	○	○	▲	▲	▲
専門科目（農学）	学科共通・専攻別	225		スマート農業活用(農)	全	必修	演習	1	15	◎	◎	◎	◎	◎					
		226		農学専攻実習Ⅱ	全	必修	実習	12	360	◎	◎	◎	◎	◎					
		227		農学専攻特別実習Ⅱ	全	必修	実習	4	120	◎	◎	◎	◎	◎					
		228		ＧＡＰ演習	全	履修	演習	1	15	○	○	○	○	○					
		229		有機JAS演習	全	履修	演習	1	15	○	○	○	○	○					
		230		作物の栽培管理・営農計画	全	必修	演習	1	15	◎									
		231		施設野菜の栽培管理・営農計画	全	必修	演習	1	15		◎								
		232		果樹の栽培管理・営農計画	全	必修	演習	1	15			◎							
		233		花きの栽培管理・営農計画	全	必修	演習	1	15				◎						
		234		茶の栽培管理・営農計画	全	必修	演習	1	15					◎					
		235		農産物の流通・販売	全	必修	演習	1	15	◎	◎	◎	◎	◎					
		236		植物育種学	全	必修	講義	1	15	◎	◎	◎	◎	◎					
		237		法人経営	前	履修	演習	1	15	○	○	○	○	○					
		238		農業指導演習	全	履修	演習	1	15	○	○	○	○	○					
専門科目（畜産）	学科共通・専攻別	239		スマート農業活用(畜)	全	必修	講義	1	15								◎	◎	◎
		240		畜産専攻実習Ⅱ	全	必修	実習	12	360								◎	◎	◎
		241		畜産専攻特別実習Ⅱ	全	必修	実習	4	120								◎	◎	◎
		242		家畜の育種と繁殖Ⅱ	前	必修	講義	2	30								◎	◎	◎
		243		ＧＡＰ演習Ⅱ(畜)	全	履修	演習	1	15								○	○	
		244		削蹄演習Ⅱ	前	選択	演習	1	15								▲	▲	
		245		肉用牛・酪農経営概論	全	必修	講義	1	15								◎	◎	
		246		養豚経営概論	全	必修	講義	1	15										◎
		247		肉用牛経営の営農計画	全	選択	演習	1	15								▲		
		248		酪農経営の営農計画	全	選択	演習	1	15									▲	
		249		養豚経営の営農計画	全	選択	演習	1	15										▲
		250		肉用牛の飼養管理	前	必修	演習	1	15								◎		
		251		乳用牛の飼養管理	前	必修	演習	1	15									◎	
		252		豚の飼養管理	前	必修	演習	1	15										◎
		253		豚の疾病と衛生	全	必修	演習	1	15										◎
		254		家畜の衛生と環境	全	履修	講義	1	15								○	○	○
		255		畜産指導演習	全	履修	演習	1	15								○	○	○
		256		家畜の解剖	全	履修	講義	1	15								○	○	○
		257		家畜繁殖技術	全	履修	講義	1	15								○	○	○
		258		畜産物の加工と流通	後	履修	演習	1	15								○	○	○
専門科目（フード）	専攻別	259		フードビジネス専攻実習Ⅱ	全	必修	実習	9	270						◎	◎			
		260		フードビジネス専攻特別実習Ⅱ	全	必修	実習	4	120						◎	◎			
		261		食品関連企業実習	後	必修	実習	2	60						◎	◎			
		262		農業生産工程管理Ⅱ（HCCAP）	前	必修	講義	1	15						◎	◎			
		263		食品化学Ⅱ	前	履修	講義	1	15						○	○			
		264		食品製造実習Ⅱ	全	必修	実習	3	90						◎	◎			
		265		フードビジネスⅡ	前	必修	講義	1	15						◎	◎			
		266		微生物活用Ⅱ	前	履修	演習	1	15						○	○			
		267		新商品開発	前	履修	演習	2	30						○	○			

※◎印は必修、○印は履修、▲印は選択

令和7年度　授業計画書[シラバス]

科目名	202	英会話II		学科名	全学科	学年	2年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	10月～1月
科目の概要	基礎的な英語力向上を図るため、教材、コミュニケーションを通した学習を行い、英会話能力、技能を養う。								
講師名	外部講師						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	国内外研修における簡単なあいさつ、日常会話ができるようになる。								
使用教材	Nice to meet you								

成績評価	方法	知識（90点）	出席率（10点）	受講態度（減点）
	基準	インタビューテスト、復習テスト、自己紹介スピーチにより評価する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為　等

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　容	日付	備　考
1	Unit5 Which high school did you go to? Ex. Conversations	10月10日(金)	A:2限目、B:3限目
2	Unit5 Which high school did you go to? Connected Speech	10月17日(金)	A:2限目、B:3限目
3	Unit5 Which high school did you go to?　まとめ	10月20日(月)	A:2限目、B:3限目
4	Unit5 Reading 5:The importance of Pronunciation	10月24日(金)	A:2限目、B:3限目
5	Unit6 Tell me about your family. Example Conversations	10月27日(月)	A:2限目、B:3限目
6	Unit6 Tell me about your family. Ways of Explaining	10月31日(金)	A:2限目、B:3限目
7	Unit6 Tell me about your family.　まとめ	11月7日(金)	A:2限目、B:3限目
8	Unit6 Reading 6: Non-Verbal Communication	11月10日(月)	A:2限目、B:3限目
9	Unit7 What do you do in your free time? Ex. Conversations	11月14日(金)	A:2限目、B:3限目
10	Unit7 What do you do in your free time? Speaking Practice	11月17日(月)	A:2限目、B:3限目
11	Unit7 What do you do in your free time?　まとめ	11月21日(金)	A:2限目、B:3限目
12	Unit7 Reading 7: The Escalator of Language Learning	12月1日(月)	A:2限目、B:3限目
13	Writing Speech: Self-introduction	12月12日(金)	A:2限目、B:3限目
14	講義の復習プリント(Unit5～7)・Interview test / Review test	12月19日(金)	復習・試験
15	英会話の基礎的知識の最新話題・Final Speech	1月9日(金)	A:2限目、B:3限目

授業時間外に必要な学修	毎回の授業の復習を付属の音源を使って行う。また、次週の内容を音源を聴き予習する。
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。

令和７年度　授業計画書［シラバス］

科目名	203	英語特別講義Ⅱ	学科名	全学科	学年	２年	学期	特別
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	8月
科目の概要	英文読解、和文英訳、時事英語など英語の理解を深め、編入学試験に対応した英語力を身につける。							
講師名	外部講師						実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	４年制大学編入学試験に対応できる英語力を身につける。							
使用教材	講師が準備した資料							

成績評価				
	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度（減点）
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為　等

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	英語の文型について	1	夏期休業中に実施（開催日時は、講師決定後に確定）
2	自動詞・他動詞について、自動詞・他動詞の活用文例	1	
3	形容詞・副詞について、形容詞・副詞の活用文例	1	
4	分詞について、分詞の活用文例	1	
5	前置詞について、前置詞の活用文例	1	
6	接続詞について、接続詞の活用文例	1	
7	仮定法について、仮定法の活用文例	1	
8	倒置法について、倒置法の活用文例	1	
9	関係詞について、関係詞の活用文例	1	
10	時制について、時制の活用文例	1	
11	英文読解のポイント	1	
12	和文英訳のポイント	1	
13	時事英語の読み方	1	
14	文章読解	1	
15	英語の基礎的知識の最新話題、試験、解説	1	

授業時間外に必要な学修	ＴＯＥＩＣを受験する。
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。

令和７年度　授業計画書［シラバス］

科目名	204	保健・体育Ⅱ		学科名	全学科	学年	２年	学期	前
授業の方法	講義・演習	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	７月～９月
科目の概要	生涯スポーツの実践や健康について、理論と実践を通して学ぶ。								
講師名	農業大学校職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	各スポーツの実践を通じて運動技能を高め、チームに貢献できる能力を養う。 保健では、自らの健康・安全についての理解を深め、健康を保持するための能力を養う。								
使用教材	農大施設 講師の準備する教材								

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	受講態度（減点）
	基準	講義終了後のレポートにより評価する。 演習状況も知識の一部として勘案する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為　等

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　容	時間	備　考
15	生涯を通じる健康についての講話	1	7/9(水)3限目(仮)
1	体つくり運動と礼法	1	9/2(火)2限目
2	■各競技に分かれて、活動する ①球技 【バスケットボール】【サッカー】 パス・ドリブル・シュートなど基本的な技術を習得 【バレーボール】 オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・サーブなど基本的な技術を習得 【バトミオントン】 基本動作・各種ストローク・サービス・シャトル操作の習得 【卓球】【テニス】 打ち方やフォーム、構え方など基本的技術を修得 【野球】 打つ・投げる・走るの基本的な動作を習得 ②陸上競技 【短距離、長距離】 疾走フォームやスタート等の基本的な動作を修得、タイム計測	1	9/2(火)3限目
3		1	9/4(木)2限目
4		1	9/4(木)3限目
5		1	9/5(金)2限目
6		1	9/5(金)3限目
7		1	9/8(月)2限目
8		1	9/8(月)3限目
9		1	9/9(火)2限目
10		1	9/9(火)3限目
11	試合形式による各スポーツの実践	1	9/12(木)
12	試合形式による各スポーツの実践	1	9/12(木)
13	試合形式による各スポーツの実践	1	9/13(金)
14	試合形式による各スポーツの実践	1	9/13(金)

授業時間外に必要な学修	
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。

令和７年度　授業計画書［シラバス］

科目名	205	くらしと法律・経済	学科名	全学科	学年	２年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～6月
科目の概要	・暮らしに大きく関わる法律や身近な経済について学ぶ ・身近な経営動向や農業をとりまく経済情勢について学ぶ							
講師名	外部講師（３法人より派遣）					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・暮らしに大きく関わる法律と身近な経済について理解させる ・国内及び県内の経済情勢と県内企業（農業法人も含む）の経営動向を理解させる ・農業をとりまく経済情勢について理解させる							
使用教材	講師指定の参考書又は配付資料							

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度（減点）
	基準	各分野の試験・レポートを９０点(各３０点×３分野)で評価する	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	講義中の態度、提出物等の状況により20点を上限に減点する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	法律の基本ルール(国民の義務と権利含む。)	1	4/17(木)2限目
2	日常生活と法律（売買と契約含む。）	1	4/17(木)3限目
3	夫婦と親子の法律	1	4/24(木)2限目
4	農地に関する法律（生産法人、６次産業化含む。）	1	4/24(木)3限目
5	職場の法律（マイナンバー含む。）	1	5/8(木)2限目
6	経営・マーケティング戦略の基本	1	5/15(木)2限目
7	生産・流通・販売活動を通じた付加価値活動 （ワークショップ①）	1	5/15(木)3限目
8	生産・流通・販売活動を通じた付加価値活動 （ワークショップ②）	1	5/22(木)2限目
9	ワークショップで学習・整理した内容発表 （各グループごとに）	1	5/22(木)3限目
10	経営・マーケティングに関する基礎的知識、 最新話題、試験（３０分）	1	5/29(木)3限目
11	Ⅰ．経済と景気	1	6/5(木)2限目
12	Ⅱ．世界経済を取り巻く環境	1	6/5(木)3限目
13	Ⅲ．日本経済を取り巻く環境	1	6/12(木)2限目
14	Ⅳ．宮崎県の景気動向	1	6/12(木)3限目
15	Ⅴ．農業を取り巻く環境　　試験	1	6/19(木)3限目
授業時間外に必要な学修			
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。		

令和７年度　授業計画書［シラバス］

科目名	206	くらしと科学 選択B	学科名	農学科	学年	２年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	８月
科目の概要	農業と科学の結びつきは、農業の発展と維持可能性を支える重要なに要素である。この化学や物理の活用術を理解すると共に関係法令などにも理解を深める。また危険物取扱についての基礎的な知識と技術を習得させ、燃焼等での活用する能力と態度を育てる。							
講師名	農大職員						実務経験のある教員等による授業科目	
使用教材	向学院　乙４類危険物取扱者受験教科書、講師作成資料							

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度（減点）
	基準	単元毎に試験を実施し、理解度を評価する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	講義中の態度、提出物により 20点を上限として減ずる。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	基礎的物理学及び基礎的科学①	1	
2	基礎的物理学及び基礎的科学②	1	
3	燃焼の基本知識①	1	
4	燃焼の基本知識②	1	
5	消化に関する基礎知識・試験	1	
6	第4類危険物以外の危険物概論	1	
7	第4類危険物以外の危険物概論	1	
8	第4類危険物の概論①	1	
9	第4類危険物の概論②・試験	1	
10	消防法①	1	
11	消防法②	1	
12	危険物の規制に関する政令①	1	
13	危険物の規制に関する政令②	1	
14	危険物の規制に関する規制	1	
15	危険物の規制に関する規制・試験	1	

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	原則として再試験は実施しない

令和７年度　授業計画書［シラバス］

科目名	207	農業と化学 選択B	学科名	農学科	学年	２年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	8月

科目の概要	・毒物・劇物の取扱についての知識を深め、毒物劇物取扱責任者試験の合格レベルまで到達する。		
講師名	農業大学校指導職員	実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	・毒物劇物取扱責任者資格取得レベルを目指す。		
使用教材	・第3版 毒物劇物取扱者 合格教本（技術評論社） ・毒物劇物取扱者オリジナル問題集（技術評論社）		

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度（減点）
	基準	毒物劇物取扱責任者試験を受験し、資格取得を目指す。 試験結果から理解度を評価する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	講義中の態度、提出物未提出、試験未受験等により20点を上限として減ずる。 試験未受験　▲20

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	毒物及び劇物に関する法規(目的と定義、禁止規定、登録等)	1	
2	毒物及び劇物に関する法規（取扱・表示、譲渡手続と交付制限）	1	
3	毒物及び劇物に関する法規（廃棄方法、運搬・事故等の措置）	1	単元試験を実施
4	基礎化学（物質の三態、原子量と分子量、原子構造と配置）	1	
5	基礎化学（物資量、溶液の濃度計算）	1	
6	基礎化学（化学結合、化学式と化学反応式、熱化学方程式）	1	
7	基礎化学（酸と塩基と中和、酸化と還元、電気分解等）	1	単元試験を実施
8	毒物劇物の性状	1	
9	毒物劇物の貯蔵法	1	
10	毒物劇物の廃棄方法	1	単元試験を実施
11	漏洩時の応急措置	1	
12	毒性・解毒法	1	
13	鑑別法	1	単元試験を実施
14	毒物及び劇物の鑑別・貯蔵・取扱方法の実地	1	
15	毒物及び劇物取扱の法令に関すること	1	単元試験を実施

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	特になし

令和７年度　授業計画書［シラバス］

科目名	207	農業と化学 選択B	学科名	農学科	学年	２年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	8月

科目の概要	・毒物・劇物の取扱についての知識を深め、毒物劇物取扱責任者試験の合格レベルまで到達する。
講師名	農業大学校指導職員　　実務経験のある教員等による授業科目
到達目標	・毒物劇物取扱責任者資格取得レベルを目指す。
使用教材	・第3版 毒物劇物取扱者 合格教本（技術評論社） ・毒物劇物取扱者オリジナル問題集（技術評論社）

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度（減点）
	基準	毒物劇物取扱責任者試験を受験し、資格取得を目指す。 試験結果から理解度を評価する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	講義中の態度、提出物未提出、試験未受験等により20点を上限として減ずる。 試験未受験　▲20

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	毒物及び劇物に関する法規(目的と定義、禁止規定、登録等)	1	
2	毒物及び劇物に関する法規（取扱・表示、譲渡手続と交付制限）	1	
3	毒物及び劇物に関する法規（廃棄方法、運搬・事故等の措置）	1	単元試験を実施
4	基礎化学（物質の三態、原子量と分子量、原子構造と配置）	1	
5	基礎化学（物資量、溶液の濃度計算）	1	
6	基礎化学（化学結合、化学式と化学反応式、熱化学方程式）	1	
7	基礎化学（酸と塩基と中和、酸化と還元、電気分解等）	1	単元試験を実施
8	毒物劇物の性状	1	
9	毒物劇物の貯蔵法	1	
10	毒物劇物の廃棄方法	1	単元試験を実施
11	漏洩時の応急措置	1	
12	毒性・解毒法	1	
13	鑑別法	1	単元試験を実施
14	毒物及び劇物の鑑別・貯蔵・取扱方法の実地	1	
15	毒物及び劇物取扱の法令に関すること	1	単元試験を実施

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	特になし

令和７年度　授業計画書［シラバス］

科目名	208 選択D	小論文演習Ⅱ		学科名	全学科	学年	２年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	４月～６月
科目の概要	進学や就職において必要となる文章表現・スピーチ・小論文対策								
講師名	外部講師（文章表現・スピーチ・小論文対策）						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	進学や就職において必要となる文章表現・スピーチ・小論文の書き方を身につける								
使用教材	講師が準備した資料								

成績評価				
	方法	知識（90点）	出席率（10点）	受講態度（減点）
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	文章表現・小論文対策(自己PR)	1	4/22(火)　2限
2	スピーチ(自己PR)	1	4/22(火)　3限
3	文章表現・小論文対策(会社の志望理由書の書き方)	1	5/13(火)　2限
4	スピーチ(志望動機について)	1	5/13(火)　3限
5	文章表現・小論文対策(エントリーシート)	1	5/20(火)　2限
6	スピーチ(エントリーシート)	1	5/20(火)　3限
7	文章表現・小論文対策(卒業研究について)	1	5/27(火)　2限
8	まとめ・スピーチ(卒業研究について)	1	5/27(火)　3限
9	文章表現・小論文対策(テーマ型小論文・農業関連等)	1	6/3(火)　2限
10	スピーチ(テーマ型小論文・農業関連等)	1	6/3(火)　3限
11	文章表現・小論文対策(テーマ型小論文・社会問題等)	1	6/10(火)　2限
12	スピーチ(テーマ型小論文・社会問題等)	1	6/10(火)　3限
13	就職・進学試験での面接のこつ	1	6/17(火)　2限
14	就職・進学試験に向けた面接の練習	1	6/17(火)　3限
15	講義の復習(文章表現・スピーチ等)・面接試験	1	※試験　6/24（火）3限

授業時間外に必要な学修	
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。

令和7年度　授業計画書［シラバス］

科目名	209 選択D	くらしと社会		学科名	全学科	学年	２年	学期	前期
授業の方法	講義・演習	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～6月
科目の概要	就職（活動）において必要となるコミュニケーション能力を身につけ、社会一般常識に関する知識を学ぶ								
講師名	外部講師							実務経験のある教員等による授業科目	○
到達目標	就職活動に必要なコミュニケーション能力と社会一般常識を身につける								
使用教材	講師が準備した資料等								

成績評価	方法	知識（７０点）	出席率（１０点）	受講態度（２０点）
	基準	小テスト、試験を実施し、理解度を評価する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為　等

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	講座受講のルール確認 就職（活動）に必要なコミュニケーションとは コミュニケーションにおいて知りたい項目・身につけたいこと	1	4/22(火)　2限
2	自己紹介・実践練習 自己開示・雑談について	1	4/22(火)　3限
3	自己紹介のバリエーションを増やす 自分を知る	1	5/13(火)　2限
4	コミュニケーションの定義 コミュニケーションの長所と短所・コミュニケーション能力	1	5/13(火)　3限
5	コミュニケーションの長所を活かすためにできること １対１コミュニケーション・心構え・尊重するとは・先入観、偏見	1	5/20(火)　2限
6	聞くことの重要性 聞くの違い	1	5/20(火)　3限
7	グループ討議：聞くポイント 実践練習	1	5/27(火)　2限
8	聞くことから聴くことへ 実践練習	1	5/27(火)　3限
9	話すこと 話し方を工夫する・実践練習	1	6/3(火)　2限
10	自分の考えを持つ 自分の考えを伝える・実践練習	1	6/3(火)　3限
11	自分の考えを伝える グループ発表：今社会で気になること	1	6/10(火)　2限
12	成長について グループ発表：テーマはグループ別	1	6/10(火)　3限
13	組織コミュニケーション 報連相	1	6/17(火)　2限
14	シーン別練習 講座のまとめ	1	6/17(火)　3限
15	（・コミュニケーションの定義・コミュニケーションの長所と短所・目標設定）及びテスト	1	※復習・試験 6/24（火）3限

授業時間外に必要な学修	
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。

令和７年度　授業計画書［シラバス］

科目名	210	農業科教育法	学科名	全学科	学年	１・２年	学期	特別
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	８月
科目の概要	農業教育の在り方、農業科教員としての心構え、学習内容、学習方法などについて講義する。授業の流れは、主に学習指導の過程や農業実験・実習法、プロジェクト学習法、高校農業科の授業体験、教育課程の編成、教育評価、農業科教員の服務と法令、施設・設備の管理、農業教育の展望と諸課題等を研究し、農業科教員として主体的に解決できる創造的な能力と実践的な態度を身に付け実習助手になるために必要な講義と演習を行う。							
講師名	副校長及び指導職員						実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	農業と社会の発展を図る創造的な農業科教員としての基礎的・基本的な素養を身に付ける。又、農業専門高校や総合専門高校の農業科授業（実験・実習）で生き物を通して学ぶ農業教育の目的を実体験し、農業教育の在り方や将来の農業科教員としての心構えと資質の向上を図る。							
使用教材	高等学校学習指導要領（農業編）、農業高校で使用する農業科目の教科書、第８次宮崎県農業・農村振興長期計画							

成績評価	方法	知識（40点）	レポート（30点）	模擬授業（10点）	出席（20点）
	基準	単元試験を実施	・大変良い　10点 ・概ね良い　８点 ・良い　６点 ・やや劣る　４点 ・劣る　２点 ・未提出　不可 ※各10点満点で評価し20点で算出	各10分間の模擬授業を実施 ・大変良い　10点 ・概ね良い　８点 ・良い　６点 ・やや劣る　４点 ・劣る　２点 ・欠席　不可	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・80%未満　0

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　容	時間	備　考
1	農業科教育法Ⅰの概要(1) 農業科教育法の意義、農業教育の本質と目的、農業の意義	1	教育副校長
2	農業科教育法Ⅰの概要(2)－宮崎県の農業教育、農業高校の現状と課題、 農業教師に求められもの	1	教育副校長
3	農業科教員の服務 服務と関係法令－学校教育法、産業教育手当、産業教育振興	1	総括副校長
4	農業教育の施設・設備および管理 意義、学校農場の性格、面積、建物・設備、施設・設備	1	総括副校長
5	教育課程の編成(1)-教育課程(カリキュラム)の意義，概念と意味	1	教務学生課課長
6	教育課程の編成(2)-農業高等学校における教育課程の編成と年間指導計画	1	教務学生課課長
7	学習指導要領とその変遷	1	教務学生課課長
8	学習指導(1) 農業科における学習指導の過程と農業実験・実習法における学習指導	1	指導職員
9	学習指導(2) 農業科におけるプロジェクト法の意義、種類、指導、計画立案	1	指導職員
10	学習指導(3) 農業科(農業実験・実習)の授業体験学習　高鍋農業高校	1	参観授業、レポート
11	学習指導(4) 農業科(農業実験・実習)の授業体験学習　高鍋農業高校	1	参観授業、レポート
12	学習指導(5) 農業科(農業実験・実習)の授業体験学習　宮崎農業高校	1	参観授業、レポート
13	学習指導(6) 農業科(農業実験・実習)の授業体験学習　宮崎農業高校	1	参観授業、レポート
14	学習評価	1	
15	指導案作成と模擬授業	1	
計		15	

授業時間外に必要な学修	
再試験及び補習対象の実施基準	総合評価で６０点以下の場合は再試験を行う。

令和７年度　授業計画書［シラバス］

科目名	211	教育実習		学科名	農学科 畜産学科	学年	２年	学期	特別
授業の方法	実習	区分	選択	単位数	2	時間数	60	開講時期	年間
科目の概要	将来、実習助手を目指す学生が教育職の業務を実践的に学びながら、自己の適性を理解する								
講師名	農業系高校の実習助手教員						実務経験のある教員等による授業科目	○	
到達目標	農業高校の実習助手の実務を体験しながら、自己の適性を理解する。また、専門性のレベルを確認し、今後の学習の一助とする。								
使用教材	各指導者が準備する資料等								

成績評価					
	方法	研修日誌（20点）	研修報告書（30点）	研修評価書（30点）	出席（20点）
	基準	・内容 Ａ(良い)20点 Ｂ(普通)10点 Ｃ(不足) 5点	・提出 提出有り：10点 提出無し： 0点 ・内容※提出のみ採点 Ａ(良い)20点 Ｂ(普通)10点 Ｃ(不足) 5点	※研修先の採点による。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・80%未満　0

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	校長講話（意識づけと宮崎の農業について）	1	実習期間は２週間
2	教頭講話（学校運営、教職とは、教育実習の意義と目的、一日の流れ）	1	
3	校務分掌「教務関係」（教務主任）	1	
4	校務分掌「生徒指導関係」（生徒指導主事）	1	
5	校務分掌「進路関係」（進路指導主事）	1	
6	校務分掌「農業教育、農場全般」（農場長）	1	
7	学習指導案の書き方	1	
8	学習指導案の作成	2	
9	ティーチングスキル① 授業環境づくりと授業実践	1	
10	ティーチングスキル② 発声、板書、机間（圃場での）支援方法等	1	
11	学級運営、ホームルームから農場運営	1	
12	実習助手としての心構え、教員としての自己分析	1	
13～53	授業準備と農業管理等	40	
54	模擬授業準備	5	
59	模擬授業	1	
60	教育実習の振り返り	1	

授業時間外に必要な学修	研修日誌の記入及び研修報告書の作成
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事業がある場合は教務学生課へ申し出ること。 その後、別途通知する。

令和７年度　授業計画書［シラバス］

科目名	212	国内外農業研修	学科名	全学科	学年	２年	学期	後期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	2	時間数	60	開講時期	１月末
科目の概要	国内の気候や風土が異なる各地域の産地や流通視察等を通して、農業の実態やアグリビジネスの現状について学習し、今後の就農計画に役立てる。また、現地の方との交流や体験を通して、経営に関する視点を身につけるとともに、社会人としての視野を広げる機会とする。							
講師名	農業大学校職員					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	研修を通じて経営に関する視点を身につけ、社会人としての視野を広げる。また、研修成果を今後の就農計画に役立てる。							
使用教材	研修のしおり							

成績評価	方法	研修報告書（７０点）	出席率（３０点）	学習態度（減点）
	基準	・提出 提出有り：40点 提出無し： 0点 ・内容※提出のみ採点 Ａ(良い)30点/6日 Ｂ(普通)15点/6日 Ｃ(悪い) 8点/6日	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	研修中の態度、提出物により30点を上限として減ずる。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1回	事前指導①　研修目的　研修内容等	１時間	
2回	事前指導②　研修先の概要	1時間	
3回	事前指導③　準備物の確認	1時間	
４回	事前調査④　研修先事前調査(研修期間前半の訪問先)	１時間	
５回	事前調査⑤　研修先事前調査(研修期間後半の訪問先)	1時間	
６回	事前指導⑥　出発式	1時間	
7～42回	国内研修　関西から関東	３６時間	６時間×６日
43～60回	報告書作成	１８時間	
授業時間外に必要な学修	研修報告書の作成		
再試験及び補習対象の実施基準	やむを得ない事情により海外農業研修に参加できない場合。		

令和７年度　授業計画書［シラバス］

科目名	213	卒業論文（農）	学科名	農学科	学年	２年	学期	後期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	4	時間数	60	開講時期	11月～2月
科目の概要	各自の研究テーマを設定し、研究計画の立案、研究の実施、論文の執筆、発表に至るまでのスキルを習得する。これらのスキルを積み上げて、最終的には卒業論文の作成をする。また、卒論作成を通して問題を分析し対応する力、自己省察力を身につける。							
講師名	・農業大学校指導職員 ・総合農業試験場茶業支場職員（茶専攻）					実務経験のある教員等による授業科目	○	
到達目標	卒業論文に取り組んだ動機や実施内容を整理し、調査結果から成果を導きだし卒業論文を提出する。							
使用教材	各指導者が準備する資料							

成績評価						
	方法	テーマ設定（10点）	研究内容（20点）	データ整理（20点）	論点整理（20点）	自主的取組（30点）
	基準	課題の背景が整理されているかを評定する。 A（良い）10点 B（普通）5点 C（悪い）3点	課題設定と実施内容の整合性がとれているかを評定する。 A（良い）20点 B（普通）15点 C（悪い）10点	調査データが記録され、データの分析ができているかを評定する。 A（良い）20点 B（普通）15点 C（悪い）10点	調査結果やまとめ、残された課題など論点が整理できているかを評価する。 A（良い）20点 B（普通）15点 C（悪い）10点	課題設定から論点整理まで自主的・主体的にできているかを評定する。 A（良い）30点 B（普通）20点 C（悪い）10点

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	卒業論文の作成に当たっての注意（卒業論文とは、論文の構成）	1	
2	文献の調査法方法	1	
3	既存の研究の分析	1	
4	問の立て方－卒論に取り上げたいテーマに関する文献を探す	1	
5	研究計画の立て方	1	
6	データ収集の方法	1	
7	データ整理の方法	1	
8	中間発表	5	
9	論文執筆の概要説明・進捗状況の報告	1	
10	アウトラインの立て方	1	
11	研究目的の書き方	1	
12	材料及び方法の書き方	1	
13	図表の書き方	1	
14	結果の書き方	1	
15	考察の書き方		
16	序論の書き方	1	
17	結論の書き方		
18～59	論文作成	40	
60	要旨の作成	1	
授業時間外に必要な学修	卒業論文の作成		
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は再作成させる		

令和７年度　授業計画書［シラバス］

科目名	214	アグリビジネスⅡ	学科名	全学科	学年	全学年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	６～１月
科目の概要	アグリビジネス分野で活躍されている経営者や関係機関の専門家を講師として招聘し、アグリビジネスの最前線について学習する。その中で企業にいたるまでの経緯や経営理念等からアグリビジネスを成功させるためのポイントや手法について学ぶ。							
講師名	外部講師					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	アグリビジネスの現状と課題について理解を深める							
使用教材	講師が準備する資料							

成績評価				
	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度(減点)
	基準	講義ごとのレポートまたは試験により評価する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	講義中の態度、提出物により20点を上限として減ずる。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	アグリビジネに関する講話①(アグリビジネスとは)(仮)	2	6/18(水)2、3限目
2	アグリビジネに関する講話②(農業経営と目標設定)(仮)	2	7/16(水)2、3限目
3	アグリビジネに関する講話③(働くということ)(仮)	2	9/3(水)2、3限目
4	アグリビジネに関する講話④(農福連携の取組)(仮)	2	9/30(火)2、3限目
5	アグリビジネに関する講話⑤(女性農業経営者の取組)(仮)	2	11/5(水)2、3限目
6	アグリビジネに関する講話⑥(農産物の輸出について)(仮)	2	12/10(水)2、3限目
7	アグリビジネに関する講話①(先進農業者・経営者の取組事例)(仮)	2	1/14(水)2、3限目
8	講義の復習・アグリビジネスレポート	1	1/14(水)6限目
9			
10			
授業時間外に必要な学修			
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。		

令和7年度　授業計画書[シラバス]

科目名	215	インターンシップⅡ	学科名	全学科	学年	2年	学期	前期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	1	時間数	30	開講時期	9月下旬

科目の概要	農業の業種での職業体験 （農業とともに地域産業を支えている水産業や林業、現場と行政をつなぐ県の出先事業所等での研修）		
講師名	外部講師	実務経験のある教員等による授業科目	指導は実務経験のある職員に限定する。
到達目標	出身地（地域）における組織・団体の果たす役割をを理解するとともに、柔軟な人間関係の構築や社会に通用する知識・スキル・スタンス（意識）を学び、自らのキャリア形成に繋げる。 また、研修をとおして、キャリアデザインの幅を広げ、望ましい職業観・勤労観を身につける。		
使用教材	各指導者が準備する資料等		

成績評価	方法	研修日誌（30点）	研修報告書（10点）	報告会（10点）	研修評価書（30点）	出席（20点）
	基準	S（特に良）30点 A(良い)25点 B(普通)20点 C（やや不）15点 D(不足) 10点 E（未提出）0点	S（特に良）10点 A(良い)8点 B(普通)6点 C（やや不）4点 D(不足) 2点 E（未提出）0点	S（特に良）10点 発表者 A(良い)8点 B(普通)6点 C（やや不） 4点 D(不足)2点 E（欠席）0点	※研修先の採点による。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・90%未満・・・・・・・未履修

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　容	時間	備　考
1	インターンシップⅡ事前指導①「講話」	2	
2	インターンシップⅡ事前指導②心得	1	
3～6 （4日間）	インターンシップⅡ実習 〔1日目〕 ・研修先の事業概要について学ぶ。 ・実習や見学をとおして幅広い分野に関する知識や技術を学ぶ。 〔2～4日目〕 ・実習や見学、講師等との意見交換をとおして、現場の実務について情報を収集する。また、実務のノウハウを会得する。	24	
7	インターンシップⅡ発表会	3	

授業時間外に必要な学修	研修日誌の記入及び研修報告書の作成
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事業がある場合は教務学生課へ申し出ること。 その後、別途通知する。

令和７年度　授業計画書［シラバス］

科目名	216	農業生産工程管理Ⅱ	学科名	農学科	学年	2年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～9月

科目の概要	農業生産において、消費者から信頼される安全･安心な農産物を提供する手法としてＧＡＰの考え方を学ぶ。		
講師名	日本ＧＡＰ協会公認講師（ＡＳＩＡＧＡＰ上級指導員） 農業大学校指導職員	実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	・農業生産工程管理（ＧＡＰ）の考え方を理解させ、具体的なリスク管理を習得させる。 ・ＧＡＰ維持・更新審査にて対応できる知識を習得させる。		
使用教材	講師準備資料		

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度（減点）
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	講義中の態度、提出物により20点を上限として減ずる。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1 2	ＧＡＰの基礎（ＧＡＰの考え方ＭＩＹＡＺＡＫＩ-ＧＡＰの概要）（小テスト）	2	学識経験者
3 4	リスク分析の考え方 （小テスト）	2	
5 6	食の安全について （小テスト）	2	
7 8	環境保全型農業(肥料の適切な施用、生物多様性に配慮した防除) （小テスト）	2	
9 10	ＭＩＹＡＺＫＡＫＩ-ＧＡＰチェックリストの解説（青果物）	2	
11 12	ＭＩＹＡＺＫＡＫＩ-ＧＡＰチェックリストの解説（穀物）	2	
13 14	労働安全について	2	
15	講義の復習とリスク評価　試験	1	農業大学校指導職員
授業時間外に必要な学修	特になし		
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試験は実施しない		

令和７年度　授業計画書［シラバス］

科目名	216	農業生産工程管理Ⅱ	学科名	畜産学科	学年	２年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	5月～7月
科目の概要	・畜産経営において、消費者から信頼される安全･安心な畜産物を提供する手法としてＧＡＰの考え方を学ぶ。							
講師名	外部講師、農業大学校職員					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・農業生産工程管理（ＧＡＰ）の考え方を理解させ、具体的なリスク管理を習得する。 ・ＧＡＰ維持・更新審査にて対応できる知識を習得する。							
使用教材	・講師準備資料							

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	受講態度（減点）
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為　等

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1～2	ＧＡＰの基礎・ＧＡＰをする、認証を取る、宮大牧場の取り組み	2	外部講師
3～4	家畜衛生に関するリスク管理・食の安全に関するリスク管理	2	
5～6	動物用医薬品の使用に関する注意点・農作業事故に対するリスク管理	2	
7～8	家畜の飼養にかかわる環境保全・アニマルウェルフェアについて	2	
9～10	ＪＧＡＰ認証の仕組み	2	
11～12	ＪＧＡＰ家畜・畜産物管理点と適合基準：共通項目（管理者の責務）	2	
13～14	ＪＧＡＰ家畜・畜産物管理点と適合基準：共通項目（リスク管理等）	2	
15	ＪＧＡＰ家畜・畜産物に関する振り返り（評価）	1	農業大学校職員
授業時間外に必要な学修	特になし		
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試験は実施しない。		

令和７年度　授業計画書［シラバス］

科目名	217	農政施策	学科名	農学科	学年	２年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	10月～3月
科目の概要	本県農業の長期展望、担い手、ＧＡＰ，農産物流通、販売などの現状と課題、主要施策及びＪＡグループの取組内容等について広く学習する。							
講師名	県庁農政水産部担当課担当者 民間企業担当者					実務経験のある教員等による授業科目		
使用教材	講師作成資料							

成績評価				
	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度（減点）
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	講義中の態度、提出物により20点を上限として減ずる。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1 2	本県農業・農村の現状　宮崎県第八次農業・農村振興長期計画 単元テスト	2	県庁農政水産部担当課
3 4	本県の農業担い手の確保と育成対策 単元テスト	2	県庁農政水産部担当課
5 6	本県の畑かん営農の現状、振興対策及び水利用 単元テスト	2	県庁農政水産部担当課
7 8	本県のＧＡＰの取組について 現状、課題、振興対策 単元テスト	2	県庁農政水産部担当課
9 10	ＪＡ営農指導の現状と取り組み、営農指導員の活動について 単元テスト	2	民間企業
11 12	本県の農畜産物流通、及び地域卸売市場における取引の現状と課題、対策 単元テスト	2	県庁農政水産部担当課
13 14 15	流通・消費動向について 市場取引の方法と機能・販売形態について 単元テスト	3	民間企業
授業時間外に必要な学修	特になし		
再試験及び補習対象の実施基準	原則として再試験は実施しない		

令和７年度　授業計画書［シラバス］

科目名	217	農政施策	学科名	畜産学科	学年	２年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～11月
科目の概要	畜産の現状と課題、主要施策及び関係法規、制度について広く学習する。							
講師名	外部講師、農業大学校職員					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・全国及び宮崎の畜産の現状とその施策を理解する。 ・家畜人工授精に関する知識を習得する。							
使用教材	講師作成資料							

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	受講態度（減点）
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為　等

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　容 ●は「家畜人工授精に関する講習」（国）の科目名及び内容	時間	備　考
1	家畜人工授精の制度と関係法規 ●〈関係法規〉家畜改良増殖法	5	農業大学校職員
2	家畜人工授精の制度と関係法規 ●〈関係法規〉家畜遺伝資源に係る不正競争の防止に関する法律		
3	家畜人工授精の制度と関係法規 ●〈関係法規〉家畜伝染病予防法		
4	家畜人工授精の制度と関係法規 ●〈関係法規〉獣医師法		
5	家畜人工授精の制度と関係法規（総括・評価） ●〈関係法規〉総括		
6	世界、日本及び宮崎県における畜産の現状と課題	1	外部講師
7	酪農及び肉用牛生産振興法、家畜商法、家畜取引法	1	
8	肉用牛情勢・肉用牛関係主要施策	1	外部講師
9	肉用牛関係価格安定制度、牛トレーサビリティ制度	1	
10	畜産情勢全般、肉用牛全般の総括：評価	1	農業大学校職員
11	酪農・養豚・養鶏情勢	1	外部講師
12	酪農・養豚・養鶏関係主要施策及び価格安定制度	1	
13	飼料情勢、飼料・家畜排せつ物関係主要施策	1	外部講師
14	飼料関係価格安定制度、飼料安全法、家畜排せつ物法	1	
15	酪農・中小家畜全般、飼料・環境全般の総括：評価	1	農業大学校職員

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。

令和7年度　授業計画書［シラバス］

科目名	218	大型特殊機械演習	学科名	全学科	学年	2	学期	全期
授業の方法	講義、演習	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	５～７月
科目の概要	道路交通法に関する講義、トラクターの操作実演、宮崎県運転免許試験場より出張試験。								
講師名	農業大学校指導職員					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	道路交通法に関するトラクターの運転技術を習得。							
使用教材	なし							

成績評価	方法	知識（７０点）	学習態度（２０点）	出席率（１０点）
	基準	各項目ごとに実技試験にて理解度を評価する。試験に合格	受講態度をA～Cの3段階で評価。 A：興味関心を持って積極的に受講している(20点) B：周囲に迷惑をかけることなく受講している(10点) C：居眠り、スマホ操作等により講義に集中していない(0点)	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	トラクターの操作方法について	1時間	
2	トラクターの運転実習(方向転換)	1時間	
3	トラクターの運転実習(障害物回避)	1時間	
4	トラクターの運転実習(見通しの悪い交差点)	1時間	
5	トラクターの運転実習(一時停止・発車、左折(巻き込み確認))	1時間	
6	免許試験コース(第１コース)の説明及び確認	1時間	
7	免許試験コース(第２コース)の説明及び確認	1時間	
8	免許試験コース(第１コース)の運転練習(方向転換・障害物回避)	1時間	
9	免許試験コース(第１コース)の運転練習(発車・停止・左折等)	1時間	
10	免許試験コース(第１コース)の運転評価	1時間	
11	免許試験コース(第２コース)の運転練習(方向転換・障害物回避)	1時間	
12	免許試験コース(第２コース)の運転練習(発車・停止・左折等)	1時間	
13	免許試験コース(第２コース)の運転評価	1時間	
14	免許試験コース(第１コース)実技試験前最終見極め確認	1時間	
15	免許試験コース(第２コース)実技試験前最終見極め確認	1時間	

授業時間外に必要な学修	なし
再試験及び補習対象の実施基準	なし

令和7年度　授業計画書[シラバス]

科目名	219	マーケティングⅡ	学科名	農学科 畜産学科	学年	2年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	選択 必修フード	単位数	1	時間数	15	開講時期	4～9月

科目の概要	本講座では、宮崎県産の農産物を題材に取り上げ、その農産物を取り巻く内部・外部環境の分析や市場調査を行い、生産や加工食品の製造方法だけでなく、マーケティングの視点から農産物を原料とした新商品開発や販路開拓・PR方法を円滑に実行するための手法を学ぶ。
講師名	外部講師：食品関連企業 フードビジネス専攻担当職員
実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	農産物を取り巻く内部・外部環境の分析や市場調査の手法について理解する。また、生産や加工食品の製造方法だけでなく、マーケティングの視点から新商品開発や販路開拓・PR方法を円滑に実行するための手法を理解する。
使用教材	講師が準備する資料

成績評価	方法	知識（９０点）	出席点（１０点）	学習態度（減点）
	基準	講義後に行う発表内容と講義後に提出するレポート内容で評価する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	授業中の態度をＡ・Ｂ・Ｃの３段階で評価し、２０点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 Ａ：問題のない授業態度　0 Ｂ：注意を受けたが改善　0.5 Ｃ：改善なし　1.0

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	①宮崎県の農産物「きんかん」をテーマに内部・外部環境分析手法の演習 ②「きんかん」を使った食品や加工品の商品形態・価格・販路・販促方法など４Ｐの視点での流通調査について	3	
2	③関連商品の調査手法について（パッケージや味） ④「新商品開発アイディアシート」を用いた既存商品のブラッシュアップ手法	3	
3	⑤関連商品の「ＳＷＯＴ分析」「４Ｐ分析」 ⑥マーケティング戦略の視点での既存商品の強みや特徴について意見やアイディアの洗い出し ⑦販売戦略シートの作成手法について	3	
4	⑧販売場面（農大祭）設定による既存商品のパンフレットや商品ＰＯＰ等の販売促進グッズの作成手法について ⑨模擬店販売の体験	3	
5	⑩卸販売などの食品流通について ⑪ＦＣＰシートの作成手法について ⑫既存商品を題材にパンフレットやＦＣＰシートを活用した食品バイヤー役との模擬商談の演習	3	

授業時間外に必要な学修	演習を基本とし、商品試作・製造やマーケティング活動に関する実習時間は別途設ける。
再試験及び補習対象の実施基準	原則として、再試・補講は認めない。

令和7年度　授業計画書［シラバス］

科目名	220	大型機械操作演習	学科名	全学科	学年	2	学期	全期
授業の方法	講義、演習	区分	選択	単位数	1	時間数	30	開講時期	７～１２月
科目の概要	道路交通法に関する講義、トラクターの操作実演、宮崎県運転免許試験場より出張試験。							
講師名	農業大学校指導職員					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	道路交通法に関するトラクターの運転技術を習得。							
使用教材	なし							

成績評価	方法	知識（７０点）	学習態度（２０点）	出席率（１０点）
	基準	各項目ごとに実技試験にて理解度を評価する。	受講態度をA～Cの3段階で評価。 A：興味関心を持って積極的に受講している(20点) B：周囲に迷惑をかけることなく受講している(10点) C：居眠り、スマホ操作等により講義に集中していない(0点)	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	トラクターの操作方法	２時間	
2	トラクターの運転実習(方向転換)	２時間	
3	トラクターの運転実習(障害物回避)	２時間	
4	トラクターの運転実習(見通しの悪い交差点)	２時間	
5	トラクターの運転実習(一時停止・発車、(左折(巻き込み確認))	２時間	
6	トラクターの運転実習(S字コース)	２時間	
7	免許試験コース(第１コース)の説明及び確認	２時間	
8	免許試験コース(第２コース)の説明及び確認	２時間	
9	免許試験コース(第１コース)の運転練習(方向転換・障害物回避)	２時間	
10	免許試験コース(第１コース)の運転練習(発車・停止・左折・S字)	２時間	
11	免許試験コース(第１コース)の運転評価	２時間	
12	免許試験コース(第２コース)の運転練習(方向転換・障害物回避)	２時間	
13	免許試験コース(第２コース)の運転練習(発車・停止・左折・S字)	２時間	
14	免許試験コース(第２コース)の運転評価	２時間	
15	免許試験コース実技試験前最終見極め確認	２時間	

授業時間外に必要な学修	なし
再試験及び補習対象の実施基準	なし

令和７年度　授業計画書[シラバス]

科目名	221	ドローン操作基礎		学科名	全学科	学年	２年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	６月～７月

科目の概要	農薬散布用ドローンの基礎知識や最新機種の特徴・性能について講義する。 農薬散布用ドローンの基礎知識や関係法令を学びながら、トイドローンの操作演習も行い、資格取得を目指す。
講師名	農業大学校職員（ドローンインストラクター）　　実務経験のある教員等による授業科目
到達目標	農薬散布用ドローンの操縦資格を取得することを目的とします。 ドローン検定（３級）の資格取得も同時に目指します。
使用教材	ＤＪＩ　ＡＧＲＡＳ　教習所学科テキスト（ＡＧＲＡＳ 農業ドローン協議会指定） ドローン検定の教科書（３級）

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度（減点）
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。（試験に合格しない場合は、資格を取得することができません）	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	２０点を上限に総合点数より減点する。 資格試験のため、公欠でも別途講義を受ける必要があります。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内容	時間	備考		
1	ドローンの基礎知識と特徴について	1	6月2日	２限目	
2	ドローンの基礎知識と飛行原理について	1	6月2日	３限目	
3	航空法について	1	6月4日	２限目	
4	散布飛行の知識について	1	6月4日	３限目	
5	農薬の知識について	1	6月11日	２限目	
6	作物保護の知識について	1	6月11日	３限目	
7	散布飛行の練習（トイドローンを使った操作演習）	1	6月27日	４限目	
8	散布飛行の練習（トイドローンを使った操作演習）	1	6月27日	５限目	
9	散布飛行の練習（トイドローンを使った操作演習）	1	6月27日	６限目	
10	試験に向けた復習及びテスト	1	6月30日	２限目	
11	最新機種（Tシリーズ）の特徴と性能について	1	6月30日	３限目	
12	最新機種（Tシリーズ）の復習及びテスト	1	7月7日	２限目	
13	ドローンの自動航行について	1	7月7日	３限目	
14	ドローンの自動航行に関する復習及びテスト	1	7月10日	２限目	
15	ドローン教習に向けた復習	1	7月10日	３限目	

授業時間外に必要な学習	農薬散布用ドローン資格取得のため、公欠である場合は補講を行う必要があります。 講義を受講していない場合は、筆記テストを受験することができません。 基礎知識の定着のため、ドローン検定３級の資格を取得することを推奨します（別途案内あり）。
再試験及び補修対象の実施基準	原則として実施はしないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。

令和７年度　授業計画書[シラバス]

科目名	222	ドローン操作演習		学科名	全学科	学年	２年	学期	特別
授業の方法	演習	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	８月

科目の概要	農薬散布用ドローンの操縦資格取得を目的とする。ドローンの基礎知識や法令を学びながら、操作の演習も行い、オペレーター資格を取得をします。操作演習は、県内民間業者に協力をお願いし、本格的な実技研修を行う。
講師名	農業大学校職員（ドローンインストラクター） 南榮工業株式会社 実務経験のある教員等による授業科目
到達目標	農薬散布用ドローンの操縦資格を取得することを目的とします。 ドローン検定（３級）の資格取得も同時に目指します。
使用教材	ＤＪＩ ＡＧＲＡＳ　教習所学科テキスト（ＡＧＲＡＳ 農業ドローン協議会指定） ドローン検定の教科書（３級）

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度（減点）
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。（実散布研修も試験を行います。試験に合格しない場合は、資格を取得することができません）	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	２０点を上限に総合点数より減点する。 資格試験のため、公欠でも別途講義を受ける必要があります。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内容	時間	備考
1～15 （３日間）	農薬散布用ドローン本体・送信機の起動方法、基本的な操作方法	1	夏期休業中
	トイドローン操作練習(離陸・着陸・上昇・下降)	1	
	トイドローン操作練習(前進・後進)	1	
	トイドローン操作練習(回転・ターン)	1	
	トイドローン操作練習(連続飛行)	2	
	自動航行による操作練習及び散布練習(液体(水))	2	
	講義の復習(自動航行による操作・応用)	1	
	手動(GPS無し)による操作練習(８の字飛行)	2	
	ドローンによる農薬散布範囲設定及び演習飛行	2	
	講義の復習(自動航行・手動操作)及び最終テスト	2	

授業時間外に必要な学習	農薬散布用ドローン資格取得のため、公欠の場合は補講を行う必要があります。 基礎知識の定着のため、ドローン検定３級の資格を取得することを推奨します（別途案内があります）。
再試験及び補修対象の実施基準	原則として実施はしないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。 ドローン操作演習については、気象条件により、研修日程が変更する可能性があります。

令和7年度　授業計画書[シラバス]

科目名	223	会社経営Ⅱ （フード必修・他選択）	学科名	全学科・ ﾌｰﾄﾞﾋﾞｼﾞﾈｽ 専攻	学年	2年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	選択(フ以外) 必修(フ)	単位数	2	時間数	30	開講時期	4～1月

科目の概要	農大の模擬会社を教材に、経営計画や販売計画の立て方や直接販売、委託販売における会計業務や宣伝方法を学ぶ。 また、法人税やふるさと納税のしくみなど会社経営に関する知識や技能について学ぶ。
講師名	フードビジネス専攻担当職員 外部講師
実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	・会社経営に関する経理、営業、企画など各分野の役割や実務内容に関する基礎知識を身につける。 ・会社の組織運営及び経理について理解する。
使用教材	講師準備資料

成績評価	方法	知識（９０点）	出席点（１０点）	学習態度（減点）
	基準	模擬会社の運営に関するグループ討議や経営シミュレーションの取り組み等、受講後のレポートにより経営知識の習得状況により評価する。決算書の読み取り方など経理に関する知識の習得状況について評価テストを行い評価する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	授業中の態度をＡ・Ｂ・Ｃの３段階で評価し、２０点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 Ａ：問題のない授業態度　0 Ｂ：注意を受けたが改善　0.5 Ｃ：改善なし　1.0

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	模擬会社に関する研究①　会社概要の理解及び経営目標の立て方について	1	
2	模擬会社に関する研究②　経理部、営業部、企画部…各組織の運営方法	1	
3	模擬会社に関する研究③　各専攻ごとの経理状況について	1	
4	模擬会社に関する研究④　直接販売、イベント販売(農大市等）の運営方法に関するグループワーク	1	
5～7	模擬会社に関する研究⑤　経営シミュレーション（カードゲームを用いたグループワーク）	3	
8	模擬会社に関する研究⑥　直接販売、委託販売の違いについて	1	
9	模擬会社に関する研究⑦　取引書類（見積書、納品書、請求書、領収書）演習	1	
10	模擬会社に関する研究⑧　取引書類（見積書、納品書、請求書、領収書）演習	1	
11～13	模擬会社に関する研究⑨　経営シミュレーション（カードゲームを用いたグループワーク）	3	
14	模擬会社に関する研究⑩　商品ディスプレイの手法、ＰＯＰ作成におけるポイントについて	1	
15	模擬会社に関する研究⑪　商品ディスプレイの手法、ＰＯＰ作成におけるポイントについて	1	
16	模擬会社に関する研究⑫　上半期決算状況に関するグループワーク	1	
17	ふるさと納税について 高鍋町役場　財政経営課　ふるさと納税担当者	1	
18	模擬会社に関する研究⑬　法人税、消費税について	1	
19	模擬会社に関する研究⑭　インボイス制度について	1	
20	模擬会社に関する研究⑮　経営データの分析手法について	1	
21	模擬会社に関する研究⑯　会計ソフトの活用について	1	
22	模擬会社に関する研究⑰　会計ソフトの活用について	1	
23	模擬会社に関する研究⑱　大規模イベントにおける販売計画の立て方	2	
24	模擬会社に関する研究⑲　大規模イベントにおける販売ブースレイアウト等対応方法について	1	
25	模擬会社に関する研究⑳　大規模イベントにおける販売ブースディスプレイト等対応方法について	1	
26	模擬会社に関する研究㉑　組織運営のあり方について	1	
27	模擬会社に関する研究㉒　業務内容の引き継ぎ手法について	1	
28～30	模擬会社に関する研究㉓　定時株主総会に向けた決算書類等の作成について	3	

授業時間外に必要な学修	会社全体、専攻ごとの販売実績について要因を分析するため情報収集を行い、売上向上に向けて研究する。
再試験及び補習対象の実施基準	原則として再試、補講は認めない。

令和7年度　授業計画書[シラバス]

科目名	224	食品の機能性Ⅱ		学科名	全学科 ﾌｰﾄﾞﾋﾞｼﾞﾈｽ専攻	学年	2年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	選択(フ以外) 履修(フ)	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～9月
科目の概要	宮崎県内の企業等による食品の機能性に着目した取り組み事例を学び、食品の機能性についての理解を深める。								
講師名	外部講師 フードビジネス専攻担当職員					実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	宮崎県内の企業等による食品の機能性に着目した取り組み事例を学び、食品の機能性についての理解を深める。								
使用教材	講師準備資料								

成績評価	方法	知識(90点)	出席点(10点)	学習態度(減点)
	基準	各講義終了後にレポートを提出し、内容や理解度により評価する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	授業中の態度をA・B・Cの3段階で評価し、20点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 A:問題のない授業態度　0 B:注意を受けたが改善　0.5 C:改善なし　1.0

授業の計画(授業の回数やスケジュール)

回	内　容	時間	備　考
1	食品の機能性①　食品の機能性に着目した商品開発の動きについて みやざきフードビジネス相談ステーション　コーディネーター　柚木崎千鶴子氏	1	
2～3	食品の機能性②　機能性表示食品事例　干したくあん(GABA) 道本食品(株)　商品管理課　藤田　葉子氏	2	
4～5	食品の機能性③　機能性表示食品事例　みやざき地頭鶏(イミダゾールジペプチド) みやざき地頭鶏事業協同組合　徳留　英裕氏	2	
6～7	食品の機能性④　機能性表示食品事例　釜炒り茶(カテキン) 宮崎県農協果汁(株)　坂谷　洋一郎氏	2	
8～9	食品の機能性⑤　機能性表示食品(サプリメント)の企画販売について (株)SUNAO製薬　廣澤　直也氏	2	
10～11	食品の機能⑥　きんかんの機能性について 宮崎大学名誉教授　水光正仁氏	2	
12～13	食品の機能性⑦　機能性表示食品事例　ミルク甘酒(分岐鎖アミノ酸) (株)Milk　Lab.　古市　佳代氏	2	
14	食品の機能性⑧　機能性表示食品事例　ブルーベリー葉健康茶(ポリフェノール他) スローライフトゥ(株)／亀長　浩蔵氏	1	
15	食品の機能性⑨　宮崎の機能性食品の学びを振り返る みやざきフードビジネス相談ステーション　コーディネーター　柚木崎千鶴子氏	1	

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試、補講は認めない。

令和7年度　授業計画書[シラバス]

科目名	224	食品の機能性Ⅱ		学科名	全学科 ﾌｰﾄﾞﾋﾞｼﾞﾈｽ専攻	学年	2年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	選択（フ以外） 履修（フ）	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～9月
科目の概要	宮崎県内の企業等による食品の機能性に着目した取り組み事例を学び、食品の機能性についての理解を深める。								
講師名	外部講師 フードビジネス専攻担当職員					実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	宮崎県内の企業等による食品の機能性に着目した取組み事例を学び食品の機能性についての理解を深める。								
使用教材	講師準備資料								

成績評価	方法	知識（９０点）	出席点（１０点）	学習態度（減点）
	基準	各講義終了後にレポートを提出し、内容や理解度により評価する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	授業中の態度をＡ・Ｂ・Ｃの３段階で評価し、２０点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 Ａ：問題のない授業態度　0 Ｂ：注意を受けたが改善　0.5 Ｃ：改善なし　1.0

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	食品の機能性①　　食品の機能性に着目した商品開発の動きについて みやざきフードビジネス相談ステーション コーディネーター　柚木崎千鶴子氏	1	
2～3	食品の機能性②　　機能性表示食品事例　干したくあん（ＧＡＢＡ） 道本食品（株）　　商品管理課　藤田　葉子氏	2	
4～5	食品の機能性③　　機能性表示食品事例　みやざき地頭鶏（イミダゾールジペプチド） みやざき地頭鶏事業協同組合　徳留　英裕氏	2	
6～7	食品の機能性④　　機能性表示食品事例　釜炒り茶（カテキン） 宮崎県農協果汁（株）　坂谷　洋一郎氏	2	
8～9	食品の機能性⑤　　機能性表示食品（サプリメント）の企画販売について （株）ＳＵＮＡＯ製薬　廣澤　直也氏	2	
10～11	食品の機能⑥　　きんかんの機能性について 宮崎大学名誉教授　　水光正仁氏	2	
12～13	食品の機能性⑦　　機能性表示食品事例　ミルク甘酒（分岐鎖アミノ酸） （株）Ｍｉｌｋ　Ｌａｂ．　　古市　佳代氏	2	
14	食品の機能性⑧　　機能性表示食品事例　ブルーベリー葉健康茶（ポリフェノール他） スローライフトゥ（株）／亀長　浩蔵氏	1	
15	食品の機能性⑨　　宮崎の機能性食品の学びを振り返る みやざきフードビジネス相談ステーション コーディネーター　柚木崎千鶴子氏	1	

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試、補講は認めない。

令和７年度　授業計画書［シラバス］

科目名	225	スマート農業活用(農)	学科名	農学科	学年	2年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～3月
科目の概要	スマート農機を使いこなすための基本となる植物の生理、光合成や新たに導入した装置の計測データの内容と解析方法を学ぶ。							
講師名	総合農業試験場職員、民間企業担当者 農業者、農業大学校指導職員					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・データの内容と解析方法を習得させる。 ・卒業後、現場においてスマート農業を実践できる基本的なスキルを習得させる。							
使用教材	講師準備資料							

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度（減点）
	基準	試験（レポート）にて理解度を評価する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	講義中の態度、提出物により20点を上限として減ずる。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1 2	植物の生理現象と園芸施設の複合環境制御について	2	総合農業試験場　担当
3 4	アグリネットシステムについて（果樹ハウス）	2	民間企業
5 6	スマート農業の実践　農業経営のスマート化 ・ＩＣＴを活用した農業経営管理技術の効率化	2	農業経営者
7 8	スマート農業の実践における　土づくり、微生物の働きについて	2	民間企業
9 10	スマート農業の実践　自動収穫ロボット開発及び実証実験ハウス栽培の取り組みについて	2	民間企業
11 12	植物の光合成働きと園芸施設の複合環境制御について（講義）	2	民間企業
13 14	農業大学校の施設園芸ハウス複合環境制御装置データ分析と活用(机上演習)	2	民間企業
15	施設園芸の複合環境制御の復習及び最新の話題	1	農業大学校指導職員
授業時間外に必要な学修	特になし		
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試験は実施しない		

令和７年度　授業計画書［シラバス］

科目名	226	専攻実習Ⅱ（農）	学科名	農学科	学年	２年	学期	全期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	15	時間数	450	開講時期	4月～3月
科目の概要	各専攻において栽培する品目の栽培技術の習得、各自のプロジェクト学修に取り組む。							
講師名	農業大学校指導職員 総合農業試験場茶業支場職員（茶専攻） 外部講師（花専攻）					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	各専攻において栽培する品目の栽培技術を習得するとともに、各自のプロジェクト品目を選定し、プロジェクト学修を実践する。							
使用教材	講師準備資料							

成績評価	方法	知識（４０点）	技能・技術（４０点）	出席率（２０点）	学習態度（減点）
	基準	各専攻で栽培する品目の生育や出荷調整について,理解度を評価する。	各専攻で栽培する品目の生育や出荷調整について理解し、プロジェクト学習に積極的に取り組んでいるかをチェックし評定する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0 時間数は日誌の提出をもってカウントする。	各専攻で栽培する品目の生育や出荷調整について,理解度を評価する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
作物、野菜、果樹、茶専攻			
通年	○各専攻で栽培する品目の栽培技術の習得 （播種、育苗、定植、誘引、整枝剪定、土づくり、採種、肥培管理、病害虫対策、温度管理、雑草対策、農業機械の操作） ○各専攻で栽培する品目の出荷調整技術の習得 （収穫方法、出荷調整方法） ○比較試験の調査・取りまとめ方法の習得 (調査項目の検討、調査方法、記帳方法)	450	農業大学校職員 茶業支場職員（茶専攻）
花専攻			
通年	○各専攻で栽培する品目の栽培技術の習得 （播種、育苗、定植、誘引、整枝剪定、土づくり、採種、肥培管理、病害虫対策、温度管理、雑草対策、農業機械の操作） ○各専攻で栽培する品目の出荷調整技術の習得 （収穫方法、出荷調整方法） ○比較試験の調査・取りまとめ方法の習得 (調査項目の検討、調査方法、記帳方法)	450	農業大学校職員
	○フラワー装飾技術演習		外部講師
授業時間外に必要な学修	実習日誌の提出　フラワー装飾技術演習		
再試験及び補習対象の実施基準	原則実施しない		

令和７年度　授業計画書［シラバス］

科目名	227	専攻特別実習Ⅱ（農）	学科名	農学科	学年	２年	学期	全期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	4	時間数	120	開講時期	4月～3月

科目の概要	・各専攻において栽培する品目の栽培技術と鮮度保持技術、出荷調整について学ぶ。
講師名	農業大学校指導職員,茶業支場職員（茶専攻） 外部講師（花専攻） 実務経験のある教員等による授業科目
到達目標	各専攻において栽培する品目の栽培技術を習得するとともに、出荷調整技術を習得する。
使用教材	講師準備資料

成績評価	方法	知識（４０点）	技能・技術（４０点）	出席率（２０点）	学習態度（減点）
	基準	各専攻で栽培する品目の生育や出荷調整について、理解度を評価する。	各専攻で栽培する品目の生育や出荷調整について理解し、プロジェクト学習に積極的に取り組んでいるかをチェックし評定する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0 時間数は日誌の提出をもってカウントする。	講義中の態度、提出物により20点を上限として減ずる。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
作物、野菜、果樹、茶専攻			
通年	各専攻で栽培する品目の生産技術の習得及び出荷調整技術の習得 （温度管理、肥培管理、病害虫対策、雑草対策、整枝剪定、農業機械の操作、出荷調整）	120	農業大学校職員 茶業支場職員 （茶専攻）
花専攻			
通年	各専攻で栽培する品目の生産技術の習得及び出荷調整技術の習得 （温度管理、肥培管理、病害虫対策、雑草対策、整枝剪定、農業機械の操作、出荷調整）	120	農業大学校職員
	フラワー装飾技術演習		外部講師

授業時間外に必要な学修	実習日誌の提出、フラワー装飾技術演習
再試験及び補習対象の実施基準	原則実施しない

令和７年度　授業計画書［シラバス］

科目名	228	ＧＡＰ演習Ⅱ（農）	学科名	農学科	学年	2	学期	全期
授業の方法	演習	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～3月
科目の概要	・各専攻において、ＧＡＰ基準書にもｔ月田自己点検・改善ととおして、ＧＡＰの内容を理解し実践手法を学ぶ。							
講師名	農業大学校指導職員、宮崎大学講師					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・ＧＡＰ基準書の内容を理解させ、自己点検・管理方法を習得させる。 ・ＧＡＰ承認審査を受審し、内容を理解させる。							
使用教材	講師準備資料、ＧＡＰ基準書　等							

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度（減点）
	基準	ＧＡＰ基準書に基づいた自己点検、改善の取り組み、審査対応など実践的なＧＡＰの理解度を各専攻の指導職員が評価する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	演習中の態度、提出物により20点を上限として減ずる。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	ＧＡＰ基準書に基づく自己点検①（経営体制・生産体制）	1	農業大学校指導職員
2	ＧＡＰ基準書に基づく自己点検②（人的資源・経営資源 教育訓練、適切な施肥管理、水の安全性）	1	
3	ＧＡＰ基準書に基づく自己点検③（栽培管理 種苗と記録の管理、病害虫・雑草対策）	1	
4	ＧＡＰ基準書に基づく自己点検④（栽培管理 農薬適正使用、土壌診断、農薬・肥料の保管と記録）	1	
5	ＧＡＰ基準書に基づく自己点検⑤（リスク管理 リスク評価・フローダイヤグラム作成演習）	3	宮崎大学講師
6			
7			
8	ＭＩＹＡＺＡＫＩ－ＧＡＰの審査受審	3	農業大学校指導職員 外部審査員
9			
10			
11	ＭＩＹＡＺＡＫＩ－ＧＡＰの審査後改善項目点検① （対策の検討・実施）	1	農業大学校指導職員
12	ＭＩＹＡＺＡＫＩ－ＧＡＰの審査後改善項目点検② （ルール、記録の確認）	1	
13	ＧＡＰ基準書に基づく自己点検⑥（リスク管理 クレーム・事故対策、リスク評価、フローダイヤグラムの復習）	1	
14	ＧＡＰ基準書に基づく自己点検⑥（リスク管理 農産物取扱施設・設備の保守点検、清掃）	1	
15	ＧＡＰ基準書に基づく自己点検⑦（栽培管理 防除衣服・保護具と散布器具、圧力容器点検、カビ毒対策）	1	

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	原則実施しない

令和７年度　授業計画書［シラバス］

科目名	229	有機ＪＡＳ演習	学科名	農学科	学年	2	学期	全期
授業の方法	演習	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～3月
科目の概要	専攻実習において、有機ＪＡＳ認証取得のための圃場づくりの考え方、記帳や自己点検を通して内容を理解し実践手法を学ぶ。							
講師名	有機JAS認証機関　講師 農業大学校指導職員					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・有機ＪＡＳ認証に向けた圃場づくりの考え方や記帳方法を習得させる。 ・基準書に基づく自己点検を行い、審査に対応できる知識を習得させる。							
使用教材	講師準備資料　等							

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度（減点）
	基準	有機ＪＡＳ基準書、運営マニュアルに即した実践、基準書の自己点検、改善の取り組み、審査対応など有機ＪＡＳの理解度を専攻担当及び学科長が評価する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	講義中の態度、提出物により20点を上限として減ずる。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	有機ＪＡＳ基準書の解説	1	農業大学校職員
2 3	有機ＪＡＳにおける圃場づくり	2	有機JAS認証機関審査員
4 5	有機栽培における肥料、資材等の解説	2	有機JAS認証機関審査員
6	自己点検①（圃場づくり）	1	農業大学校指導職員
7 8	有機ＪＡＳ認証に向けたマニュアルと記帳について	2	有機JAS認証機関審査員
9	自己点検②（有機栽培で使用可能な肥料・資材）	1	農業大学校指導職員
10	自己点検③（栽培履歴）	1	農業大学校指導職員
11 12	有機ＪＡＳ認証模擬審査	2	有機JAS認証機関審査員
13	審査後の改善（レポート提出）	1	農業大学校指導職員
14	次年度に向けたマニュアル改定	1	農業大学校指導職員
15	模擬審査（レポート提出）	1	農業大学校指導職員
授業時間外に必要な学修	特になし		
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試験は実施しない。		

令和７年度　授業計画書［シラバス］

科目名	230	作物の栽培管理・営農計画	学科名	農学科	学年	２年	学期	全期
授業の方法	講義・演習	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～3月
科目の概要	・水稲、麦類、豆類、露地野菜の特性と栽培技術の理論及び営農計画の作成について学修する。□							
講師名	農業大学校指導職員					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・水稲、麦類、豆類、露地野菜の特性と栽培技術の理論の習得及び営農計画を作成する。□							
使用教材	作物学の基礎Ⅰ（農文教） 作物の病害虫診断（農文教） ミニ植物図鑑（全国農村教育協会） 野菜園芸学の基礎 講師準備資料							

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度（減点）
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	講義中の態度、提出物により20点を上限として減ずる。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	県内の水稲、露地野菜、豆類の現状と課題	1	農業大学校指導職員
2	水稲栽培における雑草防除（雑草の種類、防除方法）	1	
3	水稲栽培における雑草防除（除草剤）	1	
4	水稲栽培における病害虫防除（主要な病気と防除方法）	1	
5	水稲栽培における病害虫防除（主要な害虫と防除方法）	1	
6	水稲栽培における先進的な技術と経営（ＩＣＴ技術、経営費）	1	
7	豆類の栽培（栽培方法、病害虫対策）	1	
8	露地野菜における栽培管理・いも類（かんしょ） 品種特性、肥培管理	1	
9	露地野菜における栽培管理・ウリ科（かぼちゃ） 品種特性、肥培管理	1	
10	露地野菜における栽培管理・とうもろこし　品種特性、肥培管理	1	
11	露地野菜における栽培管理・葉菜類（キャベツ） 品種特性、肥培管理	1	
12	露地野菜における栽培管理・果菜類（なす）肥培管理	1	
13	露地野菜における栽培管理・根菜類（にんじん、だいこん） 品種特性、肥培管理	1	
14	露地野菜の経営形態および営農計画	1	
15	栽培品目の最新話題、テスト	1	

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しない

令和７年度　授業計画書［シラバス］

科目名	231	施設野菜の 栽培管理・営農計画	学科名	農学科	学年	2年	学期	全期
授業の方法	講義・演習	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～3月
科目の概要	・各専攻で栽培している品目の栽培管理方法を習得し、プロジェクト学修に選定した品目を中心とした営農計画作成方法について学ぶ。							
講師名	農業大学校指導職員					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・各専攻で栽培している品目の栽培管理方法の習得及びプロジェクト品目を中心とした営農計画の作成							
使用教材	講師準備資料							

成績評価	方法	知識（90点）	出席率（10点）	学習態度（減点）
	基準	プロジェクト品目の栽培技術の習得及び営農計画作成について評価する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	講義・演習中の態度、提出物により20点を上限として減ずる。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1 2	すいかの栽培管理技術(温湿度管理、肥培管理、病害虫対策)	2	農業大学校指導職員
3 4	トマトの栽培管理技術（温湿度管理、肥培管理、病害虫対策）	2	
5 6	きゅうりの栽培管理技術（温湿度管理、肥培管理、病害虫対策）	2	
7 8	ピーマンの栽培管理技術（温湿度管理、肥培管理、病害虫対策）	2	
9 10	いちごの栽培管理技術（温湿度管理、肥培管理、病害虫対策）	2	
11 12	メロンの栽培管理技術（温湿度管理、肥培管理、病害虫対策）	2	
13 14 15	営農計画作成	3	

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	原則実施しない

令和７年度　授業計画書［シラバス］

科目名	232	果樹の栽培管理・営農計画	学科名	農学科	学年	２年	学期	全期
授業の方法	講義・演習	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～3月

科目の概要	プロジェクト学修に選定した品目の栽培管理、営農計画の作成		
講師名	農業大学校指導職員	実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	プロジェクト学修に選定した品目の施肥、防除、出荷調整対策及び営農計画を作成する。		
使用教材	講師準備資料		

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度（減点）
	基準	プロジェクト学修に選定した品目の栽培管理技術や経営的特徴を理解しているか、営農計画を作成してチェックし、100点満点の90％を評価点とする。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	講義中の態度、提出物により20点を上限として減ずる。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	県内果樹の現状と課題	1	
2	マンゴーの栽培管理と安定生産技術	1	
3	マンゴーの栽培管理と品質向上対策	1	
4	みかんの栽培管理と安定生産技術	1	
5	みかんの栽培管理と品質向上対策	1	
6	ライチの栽培管理と安定生産技術	1	
7	ライチの栽培管理と品質向上対策	1	
8	きんかんの栽培管理と安定生産技術	1	
9	きんかんの栽培管理と品質向上対策	1	
10	日向夏の栽培管理と安定生産技術	1	
11	日向夏の栽培管理と品質向上対策	1	
12	ぶどうの栽培管理と安定生産技術	1	
13	ぶどうの栽培管理と品質向上対策	1	
14～15	営農計画書（生産計画・収支計画）の作成	2	

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しない

令和７年度　授業計画書［シラバス］

科目名	233	花きの栽培管理・営農計画	学科名	農学科	学年	２年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～3月
科目の概要	・プロジェクト学修に選定した品目の栽培管理、営農計画の作成							
講師名	農業大学校指導職員					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・プロジェクト学修に選定した品目の施肥、防除、鮮度保持対策及び営農計画を作成する。							
使用教材	講師準備資料							

成績評価				
	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度（▲２０点）
	基準	プロジェクト学修に選定した品目の施肥、病害虫防除、切り花方法、鮮度保持対策が適切に実践されているかチェックし、100点満点の90％を評価点とする。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	各授業において受講態度をＡ・Ｂ・Ｃの３段階で評価する。 Ａ：問題のない受講態度　０点 Ｂ：注意を受けたが改善　５点 Ｃ：改善できていない、授業を妨害点　２０点

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	栽培品目の時期別切り前と鮮度保持	1	
2	球根植物の休眠条件と球根養成方法	1	
3	球根植物の球根養成方法と掘り上げ、乾燥	1	
4	花き栽培における病害虫防除（主要な病気と防除方法）	1	
5	花き栽培における病害虫防除（主要な害虫と防除方法）	1	
6	栄養繁殖品目の育苗方法	1	
7	種子繁殖品目の育苗方法	1	
8	花き栽培における先進的な技術（開花調節技術）	1	
9	花き栽培における先進的な技術（環境制御技術）	1	
10	スイートピーの栽培管理技術	1	
11	ダリアの栽培管理技術	1	
12	ラナンキュラスの栽培管理技術	1	
13	トルコギキョウの栽培管理技術	1	
14	経営指針について	1	
15	営農計画作成	1	

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情のある場合はレポート作成とする

令和７年度　授業計画書［シラバス］

科目名	234	茶の栽培管理・営農計画	学科名	農学科	学年	２年	学期	全期
授業の方法	講義・演習	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～3月
科目の概要	プロジェクト学修に選定した品目の施肥、防除、出荷調整対策及び営農計画を作成する。 お茶に関する理解を深めるため、歴史と文化や生産・流通・消費、健康増進を学ぶ。							
講師名	総合農業試験場茶業支場職員					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	お茶に関する理解を深めるため、歴史と文化や生産・流通・消費、健康増進の知識を習得させる。							
使用教材	日本茶検定公式テキスト日本茶のすべてがわかる本 講師準備資料							

成績評価				
	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度（減点）
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	講義中の態度、提出物により20点を上限として減ずる。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	茶の栽培管理①　試験計画作成	1	茶業支場支場長
2	茶の栽培管理②　試験の調査方法	1	茶業支場支場長
3	茶の栽培管理③　試験の取りまとめ方法	1	茶業支場支場長
4	お茶のプロフィール、成分、淹れ方	1	茶業支場支場長
5	お茶の健康増進	1	茶業支場支場長
6	お茶の歴史と文化	1	茶業支場支場長
7	本県の茶業史	1	茶業支場支場長
8	世界と日本のお茶の生産・流通・消費	1	茶業支場支場長
9	本県のお茶の生産・流通・消費	1	茶業支場支場長
10	お茶の品種の特性	1	茶業支場支場長
11	お茶の品種構成	1	茶業支場育種科
12	茶の栽培管理④　試験の中間発表	1	茶業支場育種科
13	茶の栽培管理⑤　試験結果の営農計画への反映	1	茶業支場育種科
14	営農計画作成　茶の管理指針との比較	1	茶業支場育種科
15	営農計画作成（レポート）	1	茶業支場支場長
授業時間外に必要な学修	特になし		
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しない		

令和７年度　授業計画書［シラバス］

科目名	235	農産物の流通・販売	学科名	農学科	学年	２年	学期	全期
授業の方法	演習	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～3月

科目の概要	作物並びに露地野菜の流通・販売について実践的に学ぶ。		
講師名	農業大学校指導職員 市場・仲卸関係者、専門店・量販店・直売所関係者	実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	・国内外における作物並びに露地野菜の流通動向及び消費動向について理解する。 ・市場・仲卸の役割や販売店の実際について理解する。		
使用教材	各指導者が準備する資料		

成績評価	方法	研修報告書（８０点）	出席率（２０点）	学習態度（減点）
	基準	・提出 提出あり：50点 提出なし： 0点 ・内容 Ａ（良い）30点 Ｂ（普通）15点 Ｃ（悪い） 5点	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0	研修中、講義中の態度により20点を上限として減ずる。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	県内及び九州管内の農作物の流通・販売について	1	農業大学校職員
2	国内の農作物の流通・販売について	1	
3	海外の農作物の流通・販売について	1	
4	市場・仲卸の役割と流通の実際（視察研修） ・集出荷施設、市場・仲卸関係者、直場所関係者から流通動向、消費動向を学ぶ。	6	農業大学校職員 民間企業
5			
6			
7			
8			
9			
10	農産物の販売の実際（視察研修） ・量販店、企業的経営者、農業法人から特徴のある商品づくりや６次化、輸出について学ぶ。	6	農業大学校職員 民間企業
11			
12			
13			
14			
15			

授業時間外に必要な学修	研修報告書の作成
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情のある場合はレポート作成とする

令和７年度　授業計画書［シラバス］

科目名	236	植物育種学	学科名	農学科	学年	2	学期	全期
授業の方法	演習	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～3月
科目の概要	・野菜および花きの品種改良や新品種育成及び品種登録や種苗法について学ぶ。							
講師名	総合農業試験場　野菜部・花き部職員 農業大学校指導職員					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・育種の方法について習得させる。 ・種苗法に関する知識を習得させる。							
使用教材	講師準備資料、宮崎県経営管理指針　等							

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度（減点）
	基準	試験及び作成した資料により、理解度を評価する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1 2 3	花きの新品種の作出、品種登録、種苗法 農業試験場で作出された品種と育成 （小テスト）	3	総合農業試験場　職員
4 5 6	野菜の新品種と育成 農業試験場で作出された品種と育成 （小テスト）	3	総合農業試験場　職員
7 8 9	実験器具・実験機器・設備類の操作方法　手指の洗浄 培地の作成　（ＭＳ培地・Ｈ培地・ＭＴ培地他）	3	農業大学校指導職員
10 11 12	実体顕微鏡の使い方 培養演習①　かんしょ及びオーキッドの継代培養	3	
13 14 15	培養演習②無菌は種と順化 （レポート）	3	

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	原則として再試験は実施しない

令和７年度　授業計画書［シラバス］

科目名	237	法人経営	学科名	農学科	学年	2年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～9月
科目の概要	・法人経営の仕組みや制度について学ぶ。 ・現地研修において、法人経営の実際を学ぶ。							
講師名	民間企業、社会保険労務士、農業法人 農業大学校 指導職員					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	農業法人の仕組みや制度について学習するとともに、県内法人の講義や視察研修を通じて法人経営への理解を深める。							
使用教材	講師準備資料							

成績評価				
	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度（減点）
	基準	試験・レポートにより理解度を評価する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	講義中の態度、提出物により20点を上限として減ずる。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	農業経営の法人化とメリット、農業法人の種類と設立	1	農業会議
2 3	農業法人の現状と取り組み	2	宮崎県農業法人経営者協会
4	農業経営の法人化の復習と宮崎県内の農業法人の状況	1	農業大学校指導職員
5 6	農業法人における労務管理について	2	社会保険労務士
7 8	法人経営の実際（講義）	2	農業生産法人代表
9 10 11 12 13	県内先進農業法人調査研修	5	県内農業法人 農業大学校指導職員
14 15	県内農業法人調査研修	2	

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	原則として再試験は実施しない。特別な事情がある場合はレポート作成とする場合がある。

令和７年度　授業計画書［シラバス］

科目名	238	農業指導演習	学科名	農学科	学年	２年	学期	全期
授業の方法	講義・演習	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～3月

科目の概要	２年生がプロジェクト学修に選定した品目の栽培管理について指導できるよう演習する。		
講師名	農業大学校指導職員	実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	２年生がプロジェクト学修に選定した品目の栽培特性や栽培管理を１年生に指導できる。		
使用教材	講師準備資料		

成績評価				
	方法	知識（８０点）	出席率（２０点）	学習態度（減点）
	基準	プロジェクト学修に選定した品目の栽培管理を理解し、１年生に適切に指導できているか評価する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	演習中の態度により20点を上限として減ずる。

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	農業指導演習方法と注意事項	1	農業大学校職員
2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14	・ほ場の確認 （水田、畑、ハウス、用排水路、残渣捨て場） ・施設の確認 （出荷調整室、籾摺乾燥室、資材置き場、機械倉庫、肥料庫、農薬庫） ・施設の確認 （出荷調整室、籾摺乾燥室、資材置き場、機械倉庫、肥料庫、農薬庫） ・栽培管理手順の確認 ・農薬調整方法の説明 ・機械、燃料の取扱 ・記帳ルール（機械、肥料、農薬、燃料） ・出荷手順の確認	13	
15	農業指導演習の反省と助言	1	

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情のある場合はレポート作成とする

令和７年度　授業計画書［シラバス］

科目名	239	スマート農業活用(畜)	学科名	畜産学科	学年	２年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	１１月～１月
科目の概要	・スマート農機を使いこなすための基本となる計測データの内容と解析方法を学ぶ。 ・ドローン等ＩＣＴ機器を操作する際の法令・ルールについて学ぶ。							
講師名	外部講師					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・データの内容と解析方法を習得させる。 ・卒業後、現場においてスマート農業を実践できる基本的なスキルを習得させる。							
使用教材	講師準備資料							

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	受講態度(減点)
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為　等

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1～3	畜産経営におけるデータの活用（肉用牛・酪農）	3	外部講師
4～6	畜産経営におけるスマート農業の開発	3	外部講師
7～8	農業大学校における環境制御型牛舎のデータ分析と活用	2	外部講師
9～10	自動操舵システム等スマート農業の活用	2	外部講師
11～12	ドローン操縦基礎講座・演習	2	外部講師
13～15	酪農経営におけるスマート農業の活用事例	3	外部講師
授業時間外に必要な学修	特になし		
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。		

令和７年度　授業計画書［シラバス］

科目名	239	スマート農業活用(畜)	学科名	畜産学科	学年	２年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	１１月～１月
科目の概要	・スマート農機を使いこなすための基本となる計測データの内容と解析方法を学ぶ。 ・ドローン等ＩＣＴ機器を操作する際の法令・ルールについて学ぶ。							
講師名	外部講師					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・データの内容と解析方法を習得させる。 ・卒業後、現場においてスマート農業を実践できる基本的なスキルを習得させる。							
使用教材	講師準備資料							

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	受講態度(減点)
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為　等

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1～3	畜産経営におけるデータの活用（肉用牛・酪農）	3	畜産試験場 肉用牛部 酪農飼料部
4～6	畜産経営におけるスマート農業の開発	3	北里大学
7～8	農業大学校における環境制御型牛舎のデータ分析と活用	2	外部講師
9～10	自動操舵システム等スマート農業の活用	2	外部講師
11～12	ドローン操縦基礎講座・演習	2	外部講師
13～15	酪農経営におけるスマート農業の活用事例	3	外部講師
授業時間外に必要な学修	特になし		
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。		

令和７年度　授業計画書［シラバス］

科目名	240	畜産専攻実習Ⅱ	学科名	畜産学科	学年	２年	学期	全期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	13	時間数	360	開講時期	4月～12月
科目の概要	各専攻別に家畜の飼養管理や繁殖・肥育管理等の実習を通して生産技術や経営スキルを学ぶ。							
講師名	農業大学校職員					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	畜産の生産技術や経営技術を習得する。							
使用教材	講師作成資料							

成績評価	方法	知識（４０点）	技能・技術（４０点）	出席率（２０点）	受講態度（減点）
	基準	各専攻別に家畜の飼養管理等の実習やプロジェクト学習に積極的に取り組んでいるかをチェックし評定する。	講師の採点による。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・90%以上　1.0 ＊90%未満は評価対象外	20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為　等

回	内　　容	時間	備　考
1～50	家畜の飼養管理等（飼料給与設計）	50	
51～100	家畜の飼養管理等（繁殖管理）	50	
101～170	家畜の飼養管理等（疾病対策）	70	
171～210	家畜の飼養管理等（哺育管理）	40	
211～270	家畜の飼養管理等（飼養環境管理）	60	
271～330	家畜の飼養管理等（肥育管理）	60	
331～350	家畜の飼養管理等（家畜防疫対策）	20	
351～360	家畜の飼養管理等（家畜排泄物処理）	10	

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	原則として再試及び補講は行わないが、特別な事情がある場合は時間外に補講を認める。

令和７年度　授業計画書［シラバス］

科目名	241	畜産専攻特別実習Ⅱ	学科名	畜産学科	学年	２年	学期	全期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	4	時間数	120	開講時期	4月～10月
科目の概要	各専攻別に家畜の飼養管理や繁殖・肥育管理等の実習を通して生産技術や経営スキルを学ぶ。							
講師名	農業大学校職員					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	畜産の生産技術や経営技術を習得する。							
使用教材	講師作成資料							

成績評価	方法	知識（４０点）	技能・技術（４０点）	出席率（２０点）	受講態度（減点）
	基準	各専攻別に家畜の飼養管理等の実習やプロジェクト学習に積極的に取り組んでいるかをチェックし評定する。	講師の採点による。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・90%以上　1.0 ＊90%未満は評価対象外	20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為　等

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1～20	家畜の飼養管理等（自給飼料生産管理）	20	
21～40	家畜の飼養管理等（分娩介助技術）	20	
41～55	家畜の飼養管理等（飼料給与管理）	15	
56～70	家畜の飼養管理等（給餌、給水設備管理）	15	
71～100	家畜の飼養管理等（衛生害虫、害獣対策）	30	
101～110	家畜の飼養管理等（作業機械の点検、管理）	10	
111～120	家畜の飼養管理等（消毒設備の点検、管理）	10	

授業時間外に必要な学修	
再試験及び補習対象の実施基準	時間外実習の時間が不足する場合、休業期間中に時間外実習を行う。

令和７年度　授業計画書［シラバス］

科目名	242	家畜の育種と繁殖Ⅱ	学科名	畜産学科	学年	２年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	2	時間数	30	開講時期	4月～5月
科目の概要	育種では、家畜の遺伝の原理や主要形質の遺伝、家畜の選抜・交配・能力検定の方法、家畜登録制度の内容を学ぶ。繁殖では繁殖に関連する主なホルモンの作用機序や分泌調節、雌・雄の繁殖生理、妊娠と分娩のしくみとともに、家畜人工授精技術について学ぶ。							
講師名	農業大学職員					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・家畜の育種や繁殖に関する知識を習得する。 ・家畜人工授精に関する知識を習得する。							
使用教材	・家畜人工授精講習会テキスト ・講師作成資料							

成績評価				
	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	受講態度（減点）
	基準	講義ごとの試験・レポートにより評価	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為　等

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容 ●は「家畜人工授精に関する講習」（国）の科目名及び内容	時間	備　考
1～2	神経・内分泌（内分泌概論） ●〈繁殖生理〉繁殖機能に係るホルモン及び神経	2	農業大学校職員
3～4	神経・内分泌（繁殖に関連する主なホルモン） ●〈繁殖生理〉性ホルモンの種類及び作用	2	
5	神経・内分泌総括及び基礎的知識等の理解：評価 ●〈繁殖生理〉内分泌系総括	1	
6～10	繁殖生理（発情周期とその制御・調節機構） ●〈繁殖生理〉繁殖の周期性及び性成熟、発情周期に伴う生殖器及び行動の変化、受精及び受精卵の発育	5	
11～13	繁殖生理（発情周期とその制御・調節機構） ●〈種付けの理論〉授精（交配）適期、（妊娠と分娩）雌生殖器内における精子及び卵子の移動並びにその機能の変化	3	
14	雌の繁殖生理及び授精機構総括：評価 ●〈種付けの理論〉（妊娠と分娩）	1	
15	精子生理（性成熟と繁殖供用） ●〈精子生理〉精液量及び精子数並びに精液の理化学的性状	1	
16～17	精子生理（精子の形成と成熟） ●〈精子生理〉精液量及び精子数並びに精液の理化学的性状	2	
18～20	精子生理（精子の形態と機能） ●〈精子生理〉精子の形態及び構造、精子の機能、精液性状及び精子機能に関与する要因	3	
21	精子生理（交尾・射精と精液） ●〈精子生理〉射精の機序	1	
22	精子生理総括：評価 ●〈精子生理〉総括	1	
23～29	人工授精技術Ⅲ（精液精子検査法）（演習） ●〈精液精子検査法〉精液及び精子の検査法	7	
30	精液精子検査法総括：評価 ●〈精液精子検査法〉精液及び精子の検査法	1	

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。

令和７年度　授業計画書［シラバス］

科目名	243	ＧＡＰ演習Ⅱ(畜)		学科名	畜産学科	学年	２年	学期	後期
授業の方法	演習	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～11月
科目の概要	ＧＡＰの内容を理解し、ＧＡＰ基準書、運営マニュアルの自己点検、実践手法を学ぶ。								
講師名	農業大学校職員							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	・ＧＡＰ基準書、運営マニュアルのリスク評価及び自己点検手法を習得させる。 ・ＧＡＰ維持・更新審査の内容を理解させ、受験に対応する知識を身につけさせる。								
使用教材	ＪＧＡＰ総合規則、農場用管理点と適合基準、アニマルウェルフェアの考え方に対応した飼養管理指針、ＧＡＰ手順書　等								

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	受講態度（減点）
	基準	専攻毎のＧＡＰ基準書、運営マニュアルの自己点検手法、審査内容の理解度を専攻担当者が評価する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・90%以上　1.0 ＊90%未満は評価対象外	20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為　等

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1～4	リスク評価表に基づくリスク評価及び見直し（各専攻）	4	担当講師：農業大学校職員
5～8	ＧＡＰ基準書に基づく自己点検（各専攻）	4	
9	ＧＡＰ更新審査準備	1	
10～15	ＪＧＡＰ更新審査受験	6	

授業時間外に必要な学修	畜産専攻実習Ⅱ及び畜産専攻特別実習Ⅱにおける農場での実践演習
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試験は実施しない

令和７年度　授業計画書［シラバス］

科目名	244	削蹄演習Ⅱ	学科名	畜産学科	学年	２年	学期	前期
授業の方法	演習	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	6-7月
科目の概要	家畜の削蹄の必要性とともに削蹄技術を学ぶ。							
講師名	宮崎県削蹄師協会、公益社団法人日本装削蹄協会					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・削蹄の技術を習得する。 ・２級認定削蹄資格を取得する。							
使用教材	・牛削蹄入門 ・講師準備資料							

成績評価	方法	知識（４０点）	技能・技術（４０点）	出席率（２０点）	受講態度(減点)
	基準	講習会試験の採点による。	講師の採点による。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・80%未満　0	20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為　等

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1～3	削蹄実習（応用） 安全な蹄の保定 蹄の整え方 蹄病の確認方法及び治療 削蹄鎌の管理方法、手入れ方法 削蹄講習会に向けた技術練習	3	担当講師：宮崎県削蹄師協会
4～6		3	担当講師：宮崎県削蹄師協会
7～9		3	担当講師：宮崎県削蹄師協会
10～12	削蹄講習会（削蹄基礎知識）評価	3	担当講師：日本装削蹄協会 （削蹄講習会）
13～15	削蹄講習会（削蹄実技）評価	3	
授業時間外に必要な学修	特になし		
再試験及び補習対象の実施基準	原則して補習は実施しない。		

令和７年度　授業計画書［シラバス］

科目名	245	肉用牛・酪農経営概論	学科名	畜産学科	学年	２年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～11月
科目の概要	肉用牛・酪農経営における技術的指標、経営的指標の各項目について学ぶとともに、経営分析指標等と比較し経営診断する技法を学ぶ。							
講師名	外部講師					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	畜産経営における将来像を具体化するため、我が家の経営または経営事例をもとに、現状を把握し、将来のあるべき経営像を描き、その到達目標を実現すべく長期計画を樹立させるとともにその手順を立案する。							
使用教材	講師作成資料							

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	受講態度（減点）
	基準	講義ごとの試験・レポートにより評価	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為　等

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1～3	肉用牛経営における経営事例研究	3	外部講師
4～6	酪農経営における経営事例研究	3	外部講師
7	経営を把握するための基本、経営計画の基本	1	外部講師
8		1	
9	コストと所得の把握、青色申告決算書による経営分析：評価	1	
10		1	
11		1	
12	各畜種の既存の資料を活用した生産性と収益性の関連性	1	
13		1	
14	経営の進行管理、進行管理から計画の見直し：評価	1	
15		1	
授業時間外に必要な学修	特になし		
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。		

令和７年度　授業計画書［シラバス］

科目名	246	養豚経営概論	学科名	畜産学科	学年	２年	学期	全
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	９月～１１月

科目の概要	養豚経営における技術的指標、経営的指標の各項目について学ぶとともに、また、養豚経営における将来像を具体化するため、我が家の経営または経営事例をもとに、現状を把握し、将来のあるべき経営像を描かせ、その到達目標を実現すべく長期計画を樹立させるとともにその手順を立案させる。
講師名	農業大学校職員、外部講師　／　実務経験のある教員等による授業科目：
到達目標	畜産経営における将来像を具体化するため、我が家の経営または経営事例をもとに、現状を把握し、将来のあるべき経営像を描き、その到達目標を実現すべく長期計画を樹立させるとともにその手順を立案する。
使用教材	・養豚の教科書　・わかりやすい養豚場実用ハンドブック ・講師作成資料

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	受講態度（減点）
	基準	講義ごとの試験・レポートにより評価	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為　等

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　容	時間	備　考
1～2	「養豚一貫経営の飼養管理のポイント」について	2	外部講師
3	養豚経営における経営事例研究（農場概要、飼養管理）	1	
4	養豚経営における経営事例研究（経営診断報告書における生産費用と損益計算書の分析）	1	
5～6	養豚経営における経営事例研究（経営診断報告書における収益性と生産技術の検討）	2	
7	養豚経営における経営事例研究（経営診断報告書における飼料購入量・飼料費の比較）	1	
8	養豚経営における経営事例研究（経営診断報告書における肉豚販売実績・技術比較）	1	
9	養豚経営における経営事例研究（経営診断報告書における経営実績の比較）	1	
10	講義の総括及び基礎的知識・新技術の知見紹介：評価	1	
11	経営を把握するための基本、経営計画の基本	1	農業大学校職員
12		1	
13	コストと所得の把握、青色申告決算書による経営分析：評価	1	
14		1	
15	経営の進行管理、進行管理から計画の見直し：評価	1	

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。

令和７年度 授業計画書［シラバス］

科目名	247	肉用牛経営の営農計画	学科名	畜産学科	学年	２年	学期	全期
授業の方法	演習	区分	選択	単位数	1	時間数	１５	開講時期	９～１月
科目の概要	プロジェクト学習に選定した品目（繁殖牛、肥育牛）について、営農計画書の作成の仕方を学ぶとともに、経営計画の策定に必要な知識を身につける。							
講師名	農業大学校職員						実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	肉用牛畜産(繁殖・肥育・一貫）経営における営農計画を作成する							
使用教材	講師準備資料							

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度（減点）
	基準	各講義・演習で作成する計画等の作成状況によって習熟度を評価するとともに、試験を実施し、理解度を評価する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	目標設定の考え方（経営管理のポイント）	1	農業大学校職員
2	経営目標・技術目標・生産計画の設定	1	
3	模範経営収支計画書の作成（動態表）	1	
4	模範経営収支計画書の作成（動態表）	1	
5	模範経営収支計画書の作成（減価償却費、飼料費積算、費用明細）	1	
6	模範経営収支計画書の作成（収支計画書）	1	
7	模範経営収支計画書の作成（収支計画書）	1	
8	模範経営収支計画書の完成	1	
9	経営収支計画書の作成（各自飼養頭数を設定、動態表）	1	
10	経営収支計画書の作成（動態表）	1	
11	経営収支計画書の作成（減価償却費、飼料費積算、費用明細）	1	
12	経営収支計画書の作成（収支計画書）	1	
13	経営収支計画書の作成（収支計画書）	1	
14	経営収支計画書の完成	1	
15	試験又はレポート	1	

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。

令和７年度 授業計画書［シラバス］

科目名	248	酪農経営の営農計画		学科名	畜産学科	学年	２年	学期	全期
授業の方法	講義・演習	区分	選択	単位数	１	時間数	１５	開講時期	４～７月
科目の概要	プロジェクト学習に選定した品目（酪農）について、営農計画書の作成の仕方を学ぶとともに、経営計画の策定に必要な知識を身につける。								
講師名	農業大学校職員							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	酪農経営における営農計画の考え方を理解し、作成できるようになる。								
使用教材	講師準備資料								

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度（減点）
	基準	各講義・演習で作成する計画等の作成状況によって習熟度を評価するとともに、試験を実施し、理解度を評価する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	目標設定の考え方（経営管理のポイント）	1	農業大学校職員
2	模範経営目標・技術目標・生産計画の設定（乳牛３０頭規模）	1	
3	模範経営収支計画書の作成（動態表）	1	
4	模範経営収支計画書の作成（動態表）	1	
5	模範経営収支計画書の作成（減価償却費、飼料費積算、費用明細）	1	
6	模範経営収支計画書の作成（収支計画書）	1	
7	模範経営収支計画書の作成（収支計画書）	1	
8	模範経営収支計画書の完成（乳牛３０頭規模）	1	
9	経営収支計画書の作成（各自飼養頭数を設定、動態表）	1	
10	経営収支計画書の作成（動態表）	1	
11	経営収支計画書の作成（減価償却費、飼料費積算、費用明細）	1	
12	経営収支計画書の作成（収支計画書）	1	
13	経営収支計画書の作成（収支計画書）	1	
14	経営収支計画書の完成	1	
15	試験又はレポート	1	

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。

令和７年度 授業計画書［シラバス］

科目名	249	養豚経営の営農計画		学科名	畜産学科	学年	２年	学期	全期
授業の方法	演習	区分	選択	単位数	1	時間数	１５	開講時期	6月～2月
科目の概要	プロジェクト学習に選定した品目（養豚）について、営農計画書の作成の仕方を学ぶとともに、経営計画の策定に必要な知識を身につける。								
講師名	農業大学校職員							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	養豚経営における営農計画の考え方を理解し、作成できるようになる。								
使用教材	講師準備資料								

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	学習態度（減点）
	基準	各講義・演習で作成する計画等の作成状況によって習熟度を評価するとともに、試験を実施し、理解度を評価する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	目標設定の考え方（経営管理のポイント）	1	農業大学校職員
2	経営目標・技術目標・生産計画の設定（養豚１００頭一貫経営）	1	
3	模範経営収支計画書の作成（動態表）	1	
4	模範経営収支計画書の作成（動態表）	1	
5	模範経営収支計画書の作成（減価償却費、飼料費積算、費用明細）	1	
6	模範経営収支計画書の作成（収支計画書）	1	
7	模範経営収支計画書の作成（収支計画書）	1	
8	模範経営収支計画書の完成（養豚１００頭一貫経営）	1	
9	経営収支計画書の作成（各自飼養頭数を設定、動態表）	1	
10	経営収支計画書の作成（動態表）	1	
11	経営収支計画書の作成（減価償却費、飼料費積算、費用明細）	1	
12	経営収支計画書の作成（収支計画書）	1	
13	経営収支計画書の作成（収支計画書）	1	
14	経営収支計画書の完成	1	
15	試験又はレポート	1	

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。

令和７年度　授業計画書［シラバス］

科目名	250	肉用牛の飼養管理	学科名	畜産学科	学年	２年	学期	前期
授業の方法	演習	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～7月
科目の概要	農場における飼養状況に応じて課題を取り上げ、肉用牛の飼養管理技術について知識・技術とともに、最新の試験研究成果を学ぶ。							
講師名	農業大学校職員、外部講師					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	農場における飼養状況に応じて課題を取り上げ、ゼミ形式で肉用牛の飼養管理技術について知識・　技術を習得させるとともに、最新の試験研究成果に関する知識を習得する。							
使用教材	日本標準飼料分析表、日本飼養標準（肉用牛）、講師作成資料							

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	受講態度（減点）
	基準	講義ごとの試験・レポートにより評価	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	肉用牛専攻の飼養管理マニュアル：繁殖牛の管理	1	農業大学校職員
2	肉用牛専攻の飼養管理マニュアル：子牛の管理	1	
3	肉用牛専攻の飼養管理マニュアル：肥育牛の管理	1	
4	肉用牛の疾病と対策：感染症関連	1	
5	肉用牛の疾病と対策：繁殖生理、代謝疾患関連	1	
6	子牛の疾病と対策	1	
7	肉用牛繁殖の給与設計	1	
8	肉用牛肥育の給与設計	1	
9	育成牛の給与設計	1	
10	子牛の給与設計	1	
11	講義の総括及び基礎的知識・新技術の知見紹介：評価	1	
12	酪農の最新の試験研究と成果	1	外部講師
13		1	
14	肉用牛の最新の試験研究と成果	1	
15		1	
授業時間外に必要な学修	特になし		
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。		

令和７年度　授業計画書［シラバス］

科目名	251	乳用牛の飼養管理	学科名	畜産学科	学年	２年	学期	前期
授業の方法	演習	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～7月

科目の概要	農場における飼養状況に応じて課題を取り上げ、乳用牛の飼養管理技術について知識・技術とともに、最新の試験研究成果を学ぶ。		
講師名	農業大学校職員、外部講師	実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	農場における飼養状況に応じて課題を取り上げ、ゼミ形式で乳用牛の飼養管理技術について知識・技術とともに、最新の試験研究成果に関する知識を習得する。		
使用教材	日本標準飼料分析表、日本飼養標準（乳用牛）、講師作成資料		

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	受講態度（減点）
	基準	講義ごとの試験・レポートにより評価	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為　等

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	酪農専攻の飼養管理マニュアル：搾乳関連手順について	1	農業大学校職員
2	酪農専攻の飼養管理マニュアル：一般飼養管理について	1	
3	酪農専攻の飼養管理マニュアル：繁殖・子牛管理について	1	
4	乳牛の疾病と対策：感染症関連	1	
5	乳牛の疾病と対策：繁殖生理、代謝疾患関連	1	
6	子牛の疾病と対策	1	
7	搾乳牛の給与設計：飼料設計における基礎の復習	1	
8	搾乳牛の給与設計：泌乳期別の飼料設計について	1	
9	乾乳牛・育成牛の給与設計	1	
10	子牛の給与設計	1	
11	講義の総括及び基礎的知識・新技術の知見紹介：評価	1	
12	酪農の最新の試験研究と成果	1	外部講師
13		1	
14	肉用牛の最新の試験研究と成果	1	
15		1	

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。

令和７年度　授業計画書［シラバス］

科目名	252	豚の飼養管理	学科名	畜産学科	学年	２年	学期	前期
授業の方法	講義・演習	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～7月
科目の概要	農場における飼養状況に応じて課題を取り上げ、豚の飼養管理技術について知識・技術とともに、最新の試験研究成果を学ぶ。							
講師名	農業大学校職員、外部講師					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	農場における飼養状況に応じて課題を取り上げ、講義を通じて豚の飼養管理技術について知識・技術を習得させるとともに、最新の試験研究成果に関する知識を習得する。							
使用教材	日本標準飼料分析表、日本飼養標準（豚）、講師作成資料							

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	受講態度（減点）
	基準	講義ごとの試験・レポートにより評価	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	種雌豚の繁殖管理（基本管理、発情・交配適期、妊娠鑑定等）	1	農大校職員
2	種雌豚の繁殖管理（基本管理、繁殖サイクル、人工授精等）	1	
3	哺乳豚の管理（基本管理、初乳、飼料設計等）	1	
4	離乳豚の管理（基本管理、消化酵素の変化、飼料設計等）	1	
5	肥育豚の管理（基本管理、ＤＧの増加･成長曲線、飼料設計等）	1	
6	講義の総括及び基礎的知識・新技術の知見紹介：評価	1	
7	豚の選抜、交配及び能力検定	1	外部講師
8	豚の選抜、交配及び能力検定	1	
9	講義の総括及び基礎的知識・新技術の知見紹介：評価	1	
10	高付加価値豚肉生産及びエコフィード活用の事例の実際	1	外部講師
11	高付加価値豚肉生産及びエコフィード活用の事例の実際	1	
12	講義の総括及び基礎的知識・新技術の知見紹介：評価	1	
13	豚に関する最新の試験研究と成果	1	畜産試験場職員
14	豚に関する最新の試験研究と成果	1	
15	講義の総括及び基礎的知識・新技術の知見紹介：評価	1	

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。

令和７年度　授業計画書［シラバス］

科目名	253	豚の疾病と衛生	学科名	畜産学科	学年	２年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	6月～1月

科目の概要	豚疾病の種類とその予防・治療方法及び養豚現場におけるバイオセキュリティ対策について学ぶ。		
講師名	農大校職員、外部講師	実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	豚の疾病の種類とその予防・治療方法及び養豚現場におけるバイオセキュリティ対策について習得する。		
使用教材	養豚の教科書、講師作成資料		

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	受講態度（減点）
	基準	講義ごとの試験・レポートにより評価	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為　等

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	養豚現場におけるバイオセキュリティの実際	1	担当講師：宮崎家畜保健衛生所衛生指導担当
2	養豚現場におけるバイオセキュリティの実際	1	
3	家伝法と監視伝染病	1	
4	養豚場の効果的な消毒（消毒薬･消毒方法等）	1	
5	講義の総括及び基礎的知識・新技術の知見紹介：評価	1	
6	豚の免疫について	1	担当講師：農大校職員
7	疾病管理（ＡＩ･ＡＯ方式）とピッグフロー（スリーサイトシステム等）	1	
8	重要疾病（口蹄疫、豚熱、アフリカ豚熱、ＰＲＲＳ等）	1	
9	呼吸器･消化器病等（マイコプラズマ病、肺炎、ＰＥＤ等）	1	
10	寄生虫病･その他の疾病について	1	
11	衛生害獣･害虫（イノシシ、ネズミ、ハエ等）	1	
12	繁殖障害･異常産	1	
13	ワクチン･抗生物質	1	担当講師：県畜産試験川南支場養豚科
14	保定と注射	1	
15	講義の総括及び基礎的知識・新技術の知見紹介：評価	1	担当講師：農大校職員

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。

令和７年度　授業計画書［シラバス］

科目名	254	家畜の衛生と環境	学科名	畜産学科	学年	２年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	6月～7月
科目の概要	家畜の飼養管理上基礎となる家畜衛生の意義と疾病診断、予防について学ぶ。また、畜産環境を取り巻く現状と課題、家畜排せつ物処理技術とともに環境と調和した資源循環型畜産の意義と重要性を学ぶ							
講師名	外部講師					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	家畜衛生及び畜産環境の情勢と課題及びその対策技術に関する知識を習得する。							
使用教材	講師作成資料							

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	受講態度（減点）
	基準	講義ごとの試験・レポートにより評価	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	世界及び日本における疾病の発生状況と防疫体制	1	外部講師
2		1	
3	宮崎県における疾病の発生状況と防疫体制	1	
4		1	
5	疾病と防疫総括：評価	1	
6	家畜衛生の目的と疾病対策	1	
7		1	
8	疾病の簡易診断法と予防接種	1	
9		1	
10	家畜衛生と疾病対策総括：評価	1	
11	家畜排せつ物の適正処理と利用	1	
12	堆肥化処理技術と施設	1	
13	汚水処理技術と施設	1	
14	悪臭対策	1	
15	畜産と環境対策総括：評価	1	

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。

令和７年度　授業計画書［シラバス］

科目名	255	畜産指導演習	学科名	畜産学科	学年	２年	学期	全期
授業の方法	演習	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	７～９月
科目の概要	２年生が各専攻の飼養管理や農場のルール等について指導できるよう演習する。							
講師名	農業大学校職員					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	２年生が各専攻の飼養管理や農場のルール等について適切に指導できる。							
使用教材	講師準備資料							

成績評価	方法	知識（８０点）	出席率（２０点）	受講態度（減点）
	基準	各専攻の飼養管理やルール等を理解し、１年生に適切に指導できているかをチェックし、100点満点の評価を行うが80％を評価点とする。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・90%以上　1.0 ＊90%未満は評価対象外	20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為　等

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	畜産指導演習方法と注意事項	1	担当講師： 農業大学校職員
2～14	各専攻の飼養管理やルール等を１年生に指導 農場内配置の確認 飼養管理手順の確認 畜舎・管理室の清掃手順 記帳ルール（薬品使用簿、注射針管理簿等）の説明 農場内作業重機の取扱い 飼料調整方法の説明 取扱い飼料の確認・在庫管理方法 農場立ち入り防疫ルールの確認	13	
15	畜産指導演習の反省と助言	1	

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情のある場合はレポート作成とする

令和７年度　授業計画書［シラバス］

科目名	256	家畜の解剖	学科名	畜産学科	学年	２年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～7月

科目の概要	家畜の体の構造について骨格、筋肉、臓器について総括的に理解させるとともに、家畜人工授精や削蹄を行う上で必要な生殖器及び肢蹄の解剖学を学ぶ。		
講師名	農業大学校職員、外部講師	実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	・家畜の体の構造について理解する。 ・家畜人工授精に関する知識を習得する。		
使用教材	・家畜人工授精テキスト ・講師作成資料		

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	受講態度（減点）
	基準	講義ごとの試験・レポートにより評価	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為　等

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容 ●は「家畜人工授精に関する講習」（国）の科目名及び内容	時間	備　考
1	生殖器解剖（生殖器の分類と発生） ●〈生殖器解剖〉精子形成及び卵子形成	1	農業大学校職員
2	生殖器解剖（生殖器の分類と発生） ●〈生殖器解剖〉精子形成及び卵子形成	1	
3	生殖器解剖（生殖器の形態及び機能） ●〈生殖器解剖〉生殖器の形態及び機能	1	
4	生殖器解剖（生殖器の形態及び機能） ●〈生殖器解剖〉生殖器の形態及び機能	1	
5	生殖器解剖総括：評価 ●〈生殖器解剖〉	1	
6～9	家畜の骨格（頭蓋、頸部、上肢、下肢、胸部、肩部、腹部、腰部、尾部など）	4	外部講師
10～11	家畜の筋肉（骨格筋、内臓を支える筋肉など）	2	
12～13	家畜の臓器（胸腔臓器、腹腔臓器など）	2	
14～15	家畜の肢蹄の構造、家畜の解剖総括：評価	2	

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。

令和７年度　授業計画書［シラバス］

科目名	257	家畜繁殖技術		学科名	畜産学科	学年	２年	学期	後期
授業の方法	演習	区分	履修	単位数	１	時間数	１５	開講時期	１０月～１２月
科目の概要	受精卵移植技術の意義、沿革、制度について理解するとともに、体内受精卵移植技術に関する一連の手技について学習する。さらに、近年普及が進んでいる体外受精卵移植技術についても知識を習得する。								
講師名	農業大学校職員、外部講師						実務経験のある教員等による授業科目	○	
到達目標	畜産における受精卵移植技術に関する知識を習得する。								
使用教材	講師作成資料								

成績評価				
	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	受講態度（減点）
	基準	講義ごとの試験・レポートにより評価	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為　等

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1～3	受精卵移植技術の意義、沿革、制度　（講義） 受精卵移植技術（体内・体外）の概要（講義） 家畜繁殖技術・受精卵移植技術の総括（講義・評価）	3	担当講師： 農業大学校職員
4～6	受精卵（体内・体外）の採取（講義） 受精卵（体内・体外）の検査（講義） 受精卵（体内・体外）の処理（講義）	3	担当講師：畜産試験場 家畜バイテク部
7～9	卵子の採取・検査（演習） 子宮還流法の手順、受精卵品質（ランク付け）について	3	担当講師：畜産試験場 家畜バイテク部 農業大学校職員
10～12	体内受精卵の採取（演習） 体内受精卵の検査（演習） 体内受精卵の処理（演習）	3	担当講師：畜産試験場 家畜バイテク部
13～15	受精卵の移植（演習） 受精卵の移植（演習） 家畜受精卵関連技術総括（演習・評価）	3	担当講師： 農業大学校職員
授業時間外に必要な学修	特になし		
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。		

令和７年度　授業計画書［シラバス］

科目名	258	畜産物の加工と流通	学科名	畜産学科	学年	２年	学期	後期
授業の方法	演習	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～1月
科目の概要	食品関連法の基礎知識、乳肉加工の種類と特徴及び県産畜産物流通の現状と課題について学ぶ。また、乳肉製品の製造演習を通して、各段階での乳及び食肉の変化や理論を学ぶ。							
講師名	・外部講師 ・農業大学校職員					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	乳肉加工の製造の基礎を習得する。							
使用教材	講師作成資料							

成績評価	方法	知識（９０点）	出席率（１０点）	受講態度（減点）
	基準	講義ごとの試験・レポートにより評価	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為　等

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	食品関連法の基礎知識	1	外部講師
2	乳肉加工の種類と特徴	1	
3	食品関連法・食肉加工総括：評価	1	
4～6	肉加工品の製造【準備・調整】（演習） 場所：調理室、肉加工室	3	外部講師
7～9	肉加工品の製造【調整・実食】（演習・評価） 場所：調理室、肉加工室	3	
10～12	乳加工品の製造（演習） 場所：調理室	3	農業大学校職員
13～15	乳加工品の製造・試食（演習・評価） 場所：調理室	3	
授業時間外に必要な学修	特になし		
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。		

令和7年度　授業計画書[シラバス]

科目名	259	専攻実習Ⅱ(フ)		学科名	フードビジネス専攻	学年	2年	学期	全期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	10	時間数	300	開講時期	4月～1月
科目の概要	様々な手法により農産物、畜産物の加工を行い、加工に関する基礎知識と技術を学ぶ。 プロジェクト課題に沿った課題解決研修に取り組み知識や技術の習得を図る。 農場での原料栽培にかかる現場実習から加工・販売までの一連の流れを実習を通して修得する。								
講師名	フードビジネス専攻担当職員					実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	・農産物、畜産物の生産現場での実習を通して、加工技術だけでなく、栽培から加工、販売までのフードビジネスに関連した知識と技術を習得する。 ・プロジェクト課題に沿った課題解決研修に取り組み知識や技術の習得を図る。 ・食品や器具機材の取り扱い、衛生管理にかかる基礎知識を身につけ、加工から販売までの一連の流れを理解する。								
使用教材	食品製造実習関連資料、生産に関する資料								

成績評価	方法	知識（５０点）	技能・技術（４０点）	出席点（２０点）	学習態度
	基準	農産物、畜産物を使った商品開発を通して加工知識や技術の習得を判断する。 プロジェクト課題に沿った取組状況や知識、技術の習得状況で判断する。 農場での実習による知識や技術の習得状況で判断する。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	授業中の態度をＡ・Ｂ・Ｃの３段階で評価し、２０点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 Ａ：問題のない実習態度　0 Ｂ：注意を受けたが改善　0.5 Ｃ：改善なし　1.0

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1～60	農大の農畜産物の栽培・飼養管理現場での実習（プロジェクト活動と関連した取組、加工・製造の原料となる農畜産物の生産現場で体験実習を行う）	60	
61～100	農大産の作物を使った焼菓子、そうざい製造	40	
101～130	農大産の作物を使ったジャム類（イチゴ、マーマレード等）の製造	30	
131～170	農大産の牛乳を使ったアイスクリーム，乳製品の製造	40	
171～210	ベーコン、ソーセージ、燻鶏等の肉加工品製造	40	
211～300	プロジェクト学習に関連した加工実習	90	
授業時間外に必要な学修	特になし		
再試験及び補習対象の実施基準	原則として補講は行わないが、特別な事情がある場合は時間外に補講を認める。		

令和7年度　授業計画書[シラバス]

科目名	260	専攻特別実習Ⅱ	学科名	フードビジネス専攻	学年	2年	学期	全期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	4	時間数	120	開講時期	4～12月
科目の概要	フードビジネス専攻において必要な資格取得に関する学習や学生模擬会社の販売実習、専攻での特別講義等を行う							
講師名	フードビジネス専攻担当職員					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	資格取得のための講習により高度な知識を身につけると共に、学生出資会社の販売活動などを通じて、社会的な実践力を身につける。							
使用教材	資格取得のためのテキスト							

成績評価	方法	知識（４０点）	技能・技術（５０点）	レポート（１０点）	取組評価
	基準	専攻特別実習に関する記録簿の記入状況と活動内容の確認により評価する。		取組状況を5段階で評価 Ａ：１０点 Ｂ：　８点 Ｃ：　６点 Ｄ：　４点 Ｅ：　２点	授業中の態度をＡ・Ｂ・Ｃの３段階で評価し、２０点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 Ａ：問題のない実習態度 0 Ｂ：注意を受けたが改善 0.5 Ｃ：改善なし

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

月	内　　容	時間	備　考
4月	資格取得のための学修、学生出資会社　販売実習、校外研修等	10	
5月		15	
6月		15	
7月		15	
8月		10	
9月		15	
10月		10	
11月		20	
12月		10	
授業時間外に必要な学修	1年間で取得する資格等を決定し、準備する。		
再試験及び補習対象の実施基準	時間外実習の時間が不足する場合、休業期間中に時間外実習を行う。		

令和7年度　授業計画書[シラバス]

科目名	261	食品関連企業実習	学科名	フードビジネス専攻	学年	2年	学期	後期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	2	時間数	60	開講時期	9～10月
科目の概要	食品関連企業での実習を通じて、農大では達成できない高度な加工技術や商品開発について学ぶ。							
講師名	フードビジネス専攻担当職員					実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	食品関連企業での実習を通して、高度な加工技術や商品開発について知見や経験を深める。							
使用教材	各企業が準備する資料							

成績評価					
	方法	知識（５０点）	技能・技術（４０点）	出席点（１０点）	学習態度（減点）
	基準	食品関連企業調査書や企画書の内容により評価する。 また、食品関連企業からの評価表や毎日記入する実習日誌、実習レポート、実績発表会の内容から評価する。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	授業中の態度をＡ・Ｂ・Ｃの３段階で評価し、２０点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 Ａ：問題のない実習態度　0 Ｂ：注意を受けたが改善　0.5 Ｃ：改善なし　1.0

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1～6	食品関連企業調査 ・食品関連企業等での実習の心構えや留意点を踏まえた企画書作成 ・企業の概要について事前調査	6	７月14日（月）１～３限 ７月15日（月）１～３限
7～54	食品関連企業実習 ・企画書に基づいた実習と学習内容の記録	48	９月16日（火）～19日（金） 10月６日（月）、７日（火）、 10月９日（木）、14日（火）
55～57	食品関連企業調査結果や研修実績まとめ・発表資料作成	3	10月15日（水）４～５限
58～60	実績発表会	3	10月17日（金）４～５限
授業時間外に必要な学修	実習先での研修日誌を作成すること。食品加工業の業績や内容を情報収集し、熟知した上で研修に参加すること。		
再試験及び補習対象の実施基準	食品関連企業からの評価表、毎日記入する実習レポートの内容から評価する。 不十分な者については、課題を与え、レポートを再提出させ、再評価する。		

令和7年度　授業計画書[シラバス]

科目名	262	農業生産工程管理Ⅱ	学科名	フードビジネス専攻	学年	2年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	6～7月

科目の概要	食品衛生法等の一部改正（Ｈ３０年６月１３日公布）により全ての食品等事業者は、原則としてＨＡＣＣＰに沿った衛生管理手法が必要となった。本科目では、食品製造における一般的衛生管理やＨＡＣＣＰ、また、企業におけるFSSC22000等の食品安全システム認証について知識を深め、食の安全性に関して衛生管理や品質管理を徹底し安全･安心の商品を消費者に提供することの重要性を学ぶ。
講師名	・外部講師　（株）HACCP　ONE ・フードビジネス専攻担当職員 実務経験のある教員等による授業科目
到達目標	学生が、農畜産物を利用した加工品を製造する中で、ＨＡＣＣＰによる衛生管理やＨＡＣＣＰの考え方を取り入れた衛生管理計画に基づき、安全な食品製造の重要性について理解することを到達目標とする。
使用教材	・講師が準備する資料 ・ＨＡＣＣＰの考え方を取り入れた衛生管理のための手引書　（発行：厚生労働省）

成績評価	方法	知識（９０点）	出席点（１０点）	学習態度（減点）
	基準	レポート及び講義終了後にテストを行い、知識の習得状況により評価する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	授業中の態度をＡ・Ｂ・Ｃの３段階で評価し、２０点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 Ａ：問題のない実習態度　0 Ｂ：注意を受けたが改善　0.5 Ｃ：改善なし　1.0

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1～3	食品製造における衛生管理について 一般的衛生管理項目 小テスト	3	
4～6	食品製造における品質管理について 農大の食品加工室における衛生管理について 小テスト	3	
7～9	農大における衛生管理プラン作成指導 小テスト	3	
10～12	食品加工エリアの衛生管理・整理整頓に関する具体的事例研究	3	
13～15	食品加工エリアの衛生管理事例に基づくチェック項目作成演習	3	

授業時間外に必要な学修	予習、復習及び小テストでの反復学習
再試験及び補習対象の実施基準	管理運営要領の特別な事情に当たる場合以外、原則として再試験は実施しない。

令和7年度　授業計画書[シラバス]

科目名	263	食品化学Ⅱ		学科名	ﾌｰﾄﾞﾋﾞｼﾞﾈｽ専攻	学年	2年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4～9月
科目の概要	食品製造における重要管理点（ＣＣＰ）を科学的根拠に基づき管理するため、測定機器（水分活性装置、ｐＨ測定、ATP測定装置等）の使用方法について学ぶ。また、食品包装資材の特徴や選定方法、味覚（５味）や官能評価の方法について知識を深めるとともに、食物に含まれる酵素の関わりについて学び、食品に関する総合的な理解を深める。								
講師名	外部講師　食品加工技術アドバイザー フードビジネス専攻担当職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	食品製造における危害要因や重要管理点を理解し、科学的根拠に基づく管理方法を学ぶため、測定機器の取扱方法を身に付ける。また、商品の官能評価方法など基礎的な知識を身につける。								
使用教材									

成績評価	方法	知識（９０点）	出席点（１０点）	学習態度（減点）
	基準	講義終了後、レポートにより評価する。評価テストを実施し、評価する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	授業中の態度をＡ・Ｂ・Ｃの３段階で評価し、２０点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 Ａ：問題のない受講態度　0 Ｂ：注意を受けたが改善　0.5 Ｃ：改善なし　1.0

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1～2	食品製造における重要管理点（ＣＣＰ） ・食品が劣化する要因と品質保持	2	
3～5	食品製造における重要管理点（ＣＣＰ）と品質管理の手法 ・工程、品質管理に用いられる機器類を使用した演習 （糖度、塩分、PH、水分活性）	3	
6	食品包装資材について ・包装資材の原理と選定方法	1	
7～9	酵素の科学 ・加熱方法の違いによるさつまいもの甘味の変化に関する実験	3	
10～11	食品製造における衛生管理 ・スタンプ法及びATP測定装置による衛生チェック	2	
12～14	官能評価 ・５味の識別試験	3	
15	講義の復習および食品化学の最新の話題	1	
授業時間外に必要な学修	特になし		
再試験及び補習対象の実施基準	原則として再試及び補講は行わないが、特別な事情がある場合は時間外に補講を認める。		

令和7年度　授業計画書[シラバス]

科目名	264	食品製造実習Ⅱ		学科名	ﾌｰﾄﾞﾋﾞｼﾞﾈｽ専攻	学年	2年	学期	全期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	3	時間数	90	開講時期	4～1月
科目の概要	農産物、畜産物を使った加工技術の習得を通して、商品開発の手法を学ぶ。								
講師名	フードビジネス専攻担当職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	農産物、畜産物の加工を行い、商品開発の知識及び製造技術を習得する。								
使用教材	食品製造実習関連資料								

成績評価	方法	知識（５０点）	技能・技術（４０点）	出席点（２０点）	学習態度（減点）
	基準	農産物、畜産物を使った加工品を製造することにより加工技術の習得状況を判断する。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	授業中の態度をＡ・Ｂ・Ｃの３段階で評価し、２０点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 Ａ：問題のない実習態度　0 Ｂ：注意を受けたが改善　0.5 Ｃ：改善なし　1.0

回	内　　容	時間	備　考
1～12	加工室、加工器具類の取り扱い説明 食品衛生に関する基礎知識(加工室の冷蔵庫温度管理、加工室の細菌検査等) 食品表示に関する基礎知識（加工品のラベル作成等）	12	
13～32	農大産の野菜・作物の加工品製造（ピューレ、パウダー製造） 農大産の小麦の加工品製造（パン、焼き菓子等） 農大産の果実の加工品製造（ドライフルーツ、グミ等）	20	
33～68	農大産の畜産物を使った肉加工品、乳加工品の製造とＨＡＣＣＰシステムに基づく製造工程の検証（ベーコン、ソーセージ、チーズ、アイスクリーム等）	36	
69～84	プロジェクト学習に関連した加工品製造実習	16	
85～90	農大産の農畜産物を使った加工品製造実習（各自製造）	6	
授業時間外に必要な学修	特になし		
再試験及び補習対象の実施基準	原則として補講は行わないが、特別な事情がある場合は時間外に補講を認める。		

令和７年度　授業計画書［シラバス］

科目名	265	フードビジネスⅡ		学科名	ﾌｰﾄﾞﾋﾞｼﾞﾈｽ専攻	学年	2年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4～9月

科目の概要	国や宮崎県内におけるフードビジネスに関する施策等について学ぶ。 農業大学校で生産される農産物を題材に用い、ＬＦＰ（ローカルフードプロジェクト）において必要となる地域の食と農の振興の核となる農畜産物の加工及び商品化に必要な知識を習得する。
講師名	外部講師　（公財）宮崎県産業振興機構 フードビジネス相談ステーション 外部講師　宮崎県食品加工技術アドバイザー フードビジネス専攻担当職員 実務経験のある教員等による授業科目
到達目標	国や宮崎県内におけるフードビジネスに関する施策等について学ぶことで、ＬＦＰ（ローカルフードプロジェクト）において必要となる農畜産物の加工に関する知識や課題解決能力が身につく。 農業大学校で生産される農産物を題材に用い、地域の食と農の振興の核となる農畜産物の加工及び商品化に必要な知識を習得する。
使用教材	講師が配布する資料

成績評価	方法	知識（９０点）	出席点（１０点）	学習態度（減点）
	基準	講義後にレポートを提出する。レポート内容や提出状況と後半に行う事業計画の作成により知識の習得状況を把握し評価する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	授業中の態度をＡ・Ｂ・Ｃの３段階で評価し、２０点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 Ａ：問題のない授業態度　0 Ｂ：注意を受けたが改善　0.5 Ｃ：改善なし　1.0

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1～3	農大産農産物を原料にした製造について① ゼリー製造の理論と演習	3	6月12日(木)　4～6限
4～6	農大産農産物を原料にした製造について② シロップ漬け製造の理論と演習	3	7月8日(火)　4～6限
7～9	農大産農産物を原料にした製造について③ せんべい製造の理論と演習	3	7月15日(火)　4～6限
10～12	農大産農産物を原料にした製造について④ ドレッシング製造の理論と演習	3	9月4日(木)　4～6限
13	国や宮崎県内におけるＬＦＰ（ローカルフードプロジェクト）に関する施策等について みやざきフードビジネス相談ステーション　藤島春美氏	1	9月8日(月)　4～6限
14～15	総合化事業計画の作成演習、発表、講義全体の振り返り	2	

授業時間外に必要な学修	事業計画作成に向けた、資料準備
再試験及び補習対象の実施基準	レポート提出が合格点に達しない場合は、合格点に達するまで再提出させる。

令和7年度　授業計画書[シラバス]

科目名	266	微生物活用Ⅱ		学科名	フードビジネス専攻	学年	2年	学期	前期
授業の方法	講義・演習	区分	履修	単位数	１単位	時間数	15時間	開講時期	4～9月
科目の概要	本校農場の生産現場を学び、そこで生産される農畜産物を原料に微生物を活用した食品の加工を学ぶ。								
講師名	フードビジネス専攻担当職員					実務経験のある教員等による授業科目	○		
到達目標	・微生物を使った食品・醗酵食品の歴史、種類を理解する。 ・実験・演習を通し、微生物の働きを利用した食品製造技術を理解する。								
使用教材	講師準備資料・各材料・器具他								

成績評価	方法	知識（９０点）	出席点（１０点）	学習態度（減点）
	基準	各講義・演習においてレポートを提出し、内容で評価する。 講義後に、評価テストを実施する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	授業中の態度をＡ・Ｂ・Ｃの３段階で評価し、２０点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 Ａ：問題のない授業態度　0 Ｂ：注意を受けたが改善　0.5 Ｃ：改善なし　1.0

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1～3	微生物を活用した食品について① 【ぬか漬】乳酸菌と酵母の増殖による食品の変化 農大産の米ぬかや野菜類を原料にぬか漬の演習	4	５月７日（水）2～3限 ５月８日（木）1限 ５月９日（金）1限
4～10	微生物を活用した食品について③ 【甘酒】麹　糸状菌カビの一種を活用した食品 【ヨーグルト研修に向けた事前研修＝畜産学科酪農舎での搾乳見学】	2	５月12日（月）1～2限
11～12	微生物を活用した食品について② 【天然酵母】天然酵母の製造（農大産小麦や農産物を活用） 【天然酵母】天然酵母を活用したパン演習	6	５月12日（月）3限 ５月16日（金）2～6限
13～15	微生物を活用した食品について④ 【ヨーグルト】　種菌（乳酸菌）について、生乳の殺菌について 講義の復習及び微生物を活用した食品の最新の話題について	3	５月20日（火） 1限、４～5限
授業時間外に必要な学修	特になし		
再試験及び補習対象の実施基準	○管理運営要領の特別な事情に当たる場合以外、原則として再試験は実施しない。		

令和7年度　授業計画書[シラバス]

科目名	267	新商品開発		学科名	ﾌｰﾄﾞﾋﾞｼﾞﾈｽ専攻	学年	2年	学期	前期
授業の方法	講義・演習	区分	履修	単位数	2	時間数	30	開講時期	4～9月

科目の概要	農大で生産される農畜産物を原料にテーマを設定し、その原料の特性を実験を通して科学的に理解しながら新商品開発を行う。新商品を開発するに当たり必要なプロセスを体系的に実践をとおして学び、プロジェクト活動とは別に自ら商品を生み出す実践力を身につける。
講師名	外部講師　宮崎県食品加工技術アドバイザー フードビジネス専攻担当職員 実務経験のある教員等による授業科目
到達目標	新商品開発のプロセスを学ぶとともに、技術的な課題を科学的に解決する方法を身につける。また得られた実験データから客観的に考える力を習得する。
使用教材	講師が配付する資料

成績評価				
	方法	知識（９０点）	出席点（１０点）	学習態度（減点）
	基準	農産物、畜産物を使った商品開発を通して製造技術の習得を判断するとともに、レポートにより評価する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上　1.0 ・90%以上95%未満　0.9 ・80%以上90%未満　0.8 ・70%以上80%未満　0.7 ・70%未満　0	授業中の態度をＡ・Ｂ・Ｃの３段階で評価し、２０点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 Ａ：問題のない授業態度　0 Ｂ：注意を受けたが改善　0.5 Ｃ：改善なし　1.0

授業の計画（授業の回数やスケジュール）

回	内　　容	時間	備　考
1	新商品開発について（１） テーマ：農大産の農産物を原料にした焼き菓子 情報収集と商品設計	1	
2～3	新商品開発について（１） テーマ：農大産の農産物を原料にした焼き菓子 試作および品質評価	2	
4～5	新商品開発について（１） テーマ：農大産の農産物を原料にした焼き菓子 試作および品質評価	2	
6～7	新商品開発について（１） テーマ：農大産の農産物を原料にした焼き菓子 試作および品質評価	2	
8～10	新商品開発について（１） テーマ：農大産の農産物を原料にした焼き菓子 試作および品質評価、販売形態の検討	3	
11～13	新商品開発について（１） テーマ：農大産の農産物を原料にした焼き菓子 賞味期限設定のための保存試験および表示作成	3	
14～16	新商品開発について（１） テーマ：農大産の農産物を原料にした焼き菓子 テスト販売	3	
17～19	新商品開発について（１） テーマ：農大産の農産物を原料にした焼き菓子 テスト販売	3	
20～22	新商品開発について（２） テーマ：米粉　　製パン試験およびグルテン抽出試験	3	
23～28	新商品開発について（２） テーマ：米粉　　米粉パン実習	6	
29～30	新商品開発について（２） テーマ：米粉　　米粉の特製に関する講義およびレポート作成	2	

授業時間外に必要な学修	特になし
再試験及び補習対象の実施基準	補講や再試験は実施しない。